

A decorative border in dark green with white line art of leaves and branches. On the right side, there are illustrations of red flowers, red apples, and small yellow berries.

飯田市の エネルギー問題・環境問題 に関する意識調査

iijo IEA girl's

〇はじめに

皆さんは「環境モデル都市」という言葉を聞いたことがありますか。私はありませんでした。

現在、環境やエネルギーに関する問題を皆さんもよく耳にするとおもいます。温室効果ガスの排出を抑えるために省エネにシフトされたり、某チェーン店のストローがプラスチック製から紙製に変えられたり、持続可能な社会が呼びかけられています。

では、なぜこのような持続可能な社会を心がけないといけなくなってしまったのでしょうか。それは、産業革命後から私たち人間が経済活動のために温室効果ガスを大量に排出しているからです。この温室効果ガスは地球温暖化の原因であり、これ以上温暖化が進んでしまうと温室効果ガスの排出を抑えることができなくなり、飯田市では特産品からりんごが消えるとよく話されています。

そこで、飯田市は「2050年、飯田は日本一住みたいまちになる」という目標の元、飯田のブランド化のために1990年代から環境問題に対する取り組みを行っています。その取り組みは活発で、2010年に国から「環境モデル都市」として選定されたり、「環境が文化になるまで」を意とする「環境文化都市」も自ら宣言したりしています。

ですが、ここである問題が発生してしまいます。それは、国等、環境問題に知見のある人からの評価は高いのに、市民の方達には取り組みがあまり伝わっていないことです。そこに目をつけた私たちiijo IEA girl'sは、「環境モデル都市いいだの未来を一緒に考えよう」を目標に探究活動を行ってきました。

今回のアンケートはこの活動の一環で、原因を追求することに重きを置いています。

今回のアンケート作りに協力してくださった方々、そして回答してくれた皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。皆さまの協力がなければ、私のこの独善的な探究活動を完遂することはできませんでした。

私の主観で出来上がっているアンケートなので、「こういう考え方の人がいるんだ」程度に見ていただけると幸いです。

〇目次

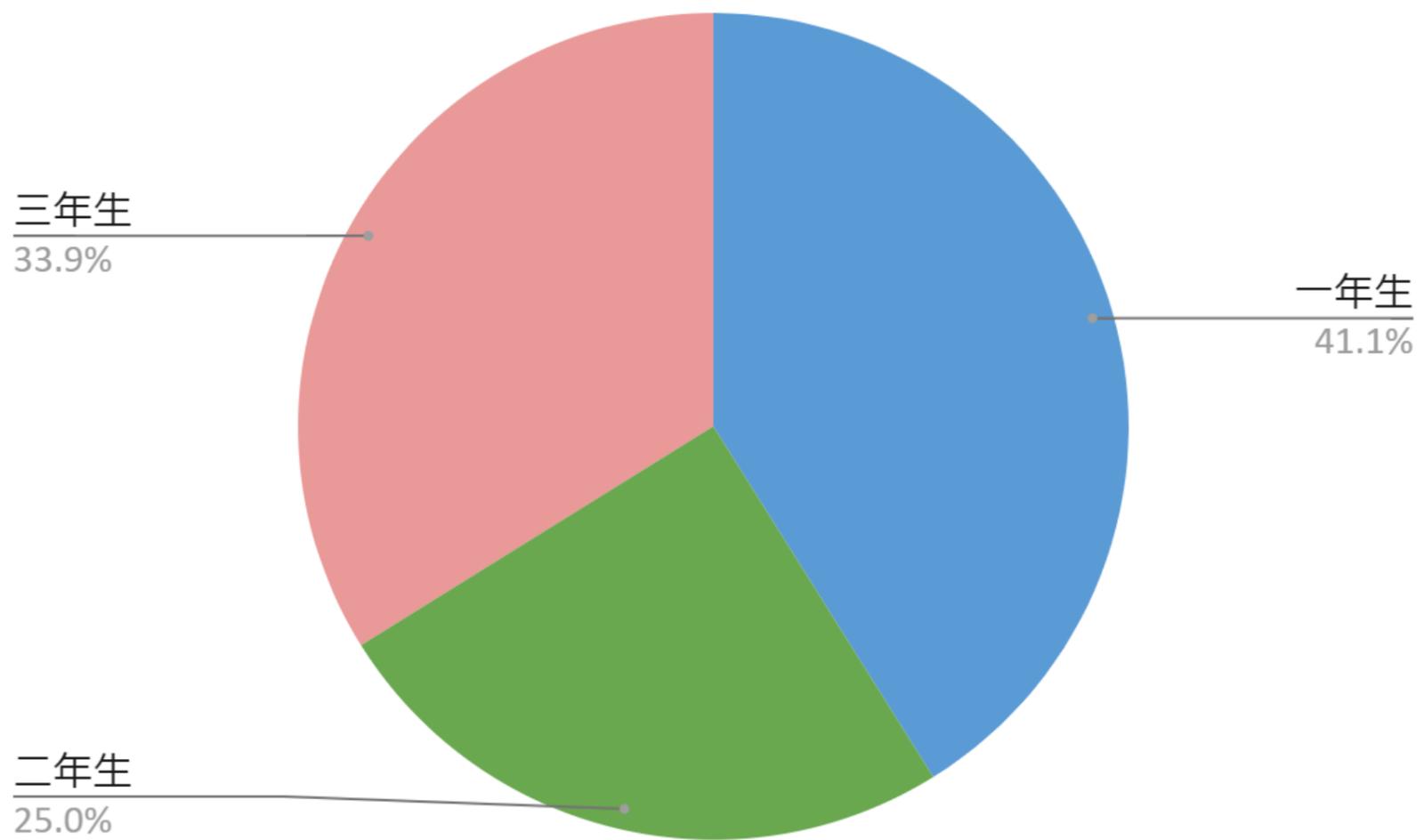
| | |
|----------------------|----|
| 〇はじめに..... | 2 |
| 〇調査概要..... | 4 |
| 〇回答者の属性..... | 4 |
| 〇アンケート表..... | 6 |
| 〇現状を知る..... | 9 |
| ◎設問③..... | 9 |
| ◎設問④..... | 11 |
| ◎「現状を知る」の考察..... | 14 |
| ◎考察から考えられる新しい仮説..... | 14 |
| 〇設問ごとの考察..... | 15 |
| ◎設問⑤..... | 15 |
| ◎設問⑥..... | 18 |
| ◎設問⑦..... | 19 |
| ◎設問⑧..... | 21 |
| ◎設問⑨..... | 22 |
| 〇仮説に対する考察..... | 23 |
| ◎仮説..... | 23 |
| 仮説①..... | 24 |
| 仮説②..... | 29 |
| 仮説③..... | 30 |
| 仮説④..... | 33 |
| 仮説⑤..... | 37 |
| 仮説⑥..... | 41 |
| ◎仮説を通しての考察..... | 46 |
| ◎考察から考えられる新しい仮説..... | 46 |
| 〇意識調査を終えて..... | 46 |

○調査概要

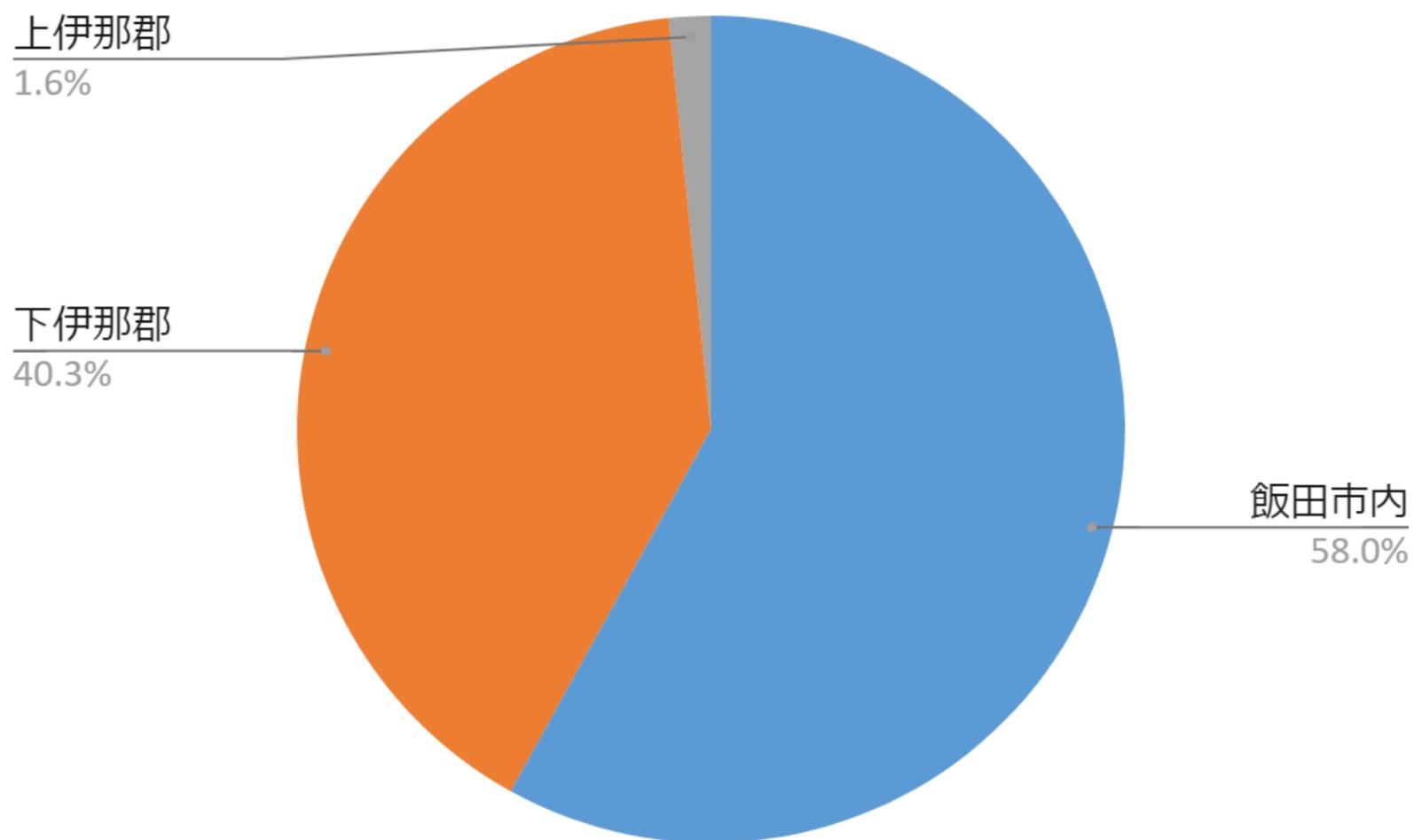
- ・調査対象 飯田女子高等学校に在籍する1年生から3年生
- ・調査方法 インターネット(Microsoft Formsにて)
- ・サンプル数 305人
- ・実査期間 2023年10月27日(金)～11月2日(木)

○回答者の属性

| | | | |
|----|-----|------|---------|
| 年代 | 一年生 | 125人 | (41.0%) |
| | 二年生 | 76人 | (25.5%) |
| | 三年生 | 104人 | (34.1%) |



| | | |
|----|-----------|--------------|
| 地域 | 飯田市内 | 177人(58.03%) |
| | 下伊那郡 | 123人(40.33%) |
| | 上伊那郡 | 5人(1.64%) |
| | 木曾郡 | 0人 |
| | 上記以外の長野県内 | 0人 |
| | 長野県外 | 0人 |



飯田女子高等学校

| 学年 | 在籍人数(人) | 回答人数(人) | 回答率 |
|-----|---------|---------|-------|
| 一年生 | 214 | 125 | 58.4% |
| 二年生 | 178 | 76 | 42.7% |
| 三年生 | 159 | 104 | 65.4% |
| 合計 | 551 | 305 | 55.4% |

※小数第2位を四捨五入

○アンケート表

① 在籍している学年を選んでください。*

- ▶一年生
- ▶二年生
- ▶三年生

② 現在、どちらの地域にお住まいですか。*

- ▶飯田市内
- ▶下伊那郡
- ▶上伊那郡
- ▶木曾郡
- ▶上記以外の長野県内
- ▶長野県外

③ 飯田市は環境に関する都市宣言を定めたり、国等からさまざまな都市・地域として選定を受けたりしています。以下のなかで聞いたことがあるものにチェックをしてください。(複数回答可)*

- 「環境文化都市」¹
- 「環境モデル都市」²
- 「2050 いいだゼロカーボンシティ宣言」³
- 「脱炭素先行地域」⁴
- 2010年の環境首都コンテスト⁵で「明日の環境首都賞」を受賞した
- どれも聞いたことがない

④ 飯田市が環境やエネルギーに対して今までに行なった取り組みとして聞いたことがあるものにチェックをしてください。(複数回答可)*

- 太陽光発電の普及・促進
- ごみ処理費用負担制度の導入(1990年)
- 地域ぐるみ環境IOS研究会⁶の発足(1997年)
- 公共施設(学校、温泉施設など)のペレットストーブ⁷設置
- レジ袋の有料化(2009年)
- りんご並木のエコハウスの運営

¹ 環境文化都市...飯田市が持続可能で循環型の社会を実現するため、目標に掲げている都市像である。

² 環境モデル都市...低炭素社会の実現に向けて高い目標を掲げ、先駆的な取り組みにチャレンジしている都市として、政府が選定するものである。また、日本を低炭素社会に転換していくため、ライフスタイル、都市や交通のあり方など社会の仕組みを根本から変えることや市民や地元企業の参加など地域一丸の底力の発揮により低炭素型の都市・地域モデルを構築し、地球環境 負荷の低減と地域の持続的発展を同時に実現することにより、地域の活性化を実現することを目的としている。

³ 2050いいだゼロカーボンシティ宣言...ゼロカーボンシティとは2050年に温室効果ガスの排出量または二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを目指す旨を首長自らまたは地方自治体として公表された地方自治体のことである。

⁴ 脱炭素先行地域...2050年カーボンニュートラルに向けて、民生部門(家庭部門及び業務その他部門)の電力消費に伴うCO₂排出の実質ゼロを実現し、運輸部門や熱利用等も含めてそのほかの温室効果ガス排出削減についても、日本全体の2030年度目標と整合する削減を地域特性に応じて実現する地域のことを指す。

⁵ 環境首都コンテスト...環境先進国といわれるドイツで、環境NGOである「ドイツ環境支援協会」が11年間継続実施した「環境首都コンテスト」が、自治体の環境対策をより活性化し、ドイツ社会のエコロジー化に大きな影響を及ぼしたと言われている。
そこで、日本でも近年環境自治体をめざす市区町村の動きが顕著になってきたことを受け、環境NGOで組織する「環境首都コンテスト全国ネットワーク」が、環境自治体づくりを支援し、かつNGOと自治体、さらには自治体間の環境問題に関する情報相互交換を目的とした「日本の環境首都コンテスト」が実施されてきた。

⁶ 地域ぐるみ環境ISO研究会...産業公害の経験がない地元産業も率先して環境負荷低減に取り組もうと、平成9年、飯田市内のISO14001(製品の製造やサービスの提供など、自社の活動による環境への負荷を最小限にするように定めた仕様書)を認証取得している6社によって発足した。現在、飯田下伊那地域の28事業所が「環境ISO」をキーワードに連携し、自主的・主体的な運営を行っている。その活動理念は、「地域の自然を残し、持続可能な地域づくりのため、新しい環境改善の地域文化を創造する」ことで、それぞれの事業所の枠を超えた活動を展開し、「点から面を」を合言葉に、地域全体で環境改善活動を展開することを視野に入れて活動している。

⁷ ペレットストーブ...木の粉を円柱形に固めた「木質ペレット」を燃やして暖をとるストーブ。ペレットストーブは輻射熱という遠赤外線で壁や床、天井などに熱を伝え、その熱が放出することで暖まる仕組みで遠赤外線は身体の奥まで浸透するので、身体の芯から暖かくなる感覚があり、部屋全体が暖かになり簡単に冷えないようになっている。

- ラウンドアバウト⁸の導入(2011年)
- メガソーラーいっだの設置(2011年)
- 薪ストーブなど木質バイオマスの利活用推進
- 地域環境権条例の制定(2013年)
- 南アルプスがユネスコエコパーク⁹として登録される(2014年)
- ポイ捨て条約を制定した(2014年)
- マイクロ水力発電所・小水力発電所¹⁰の設置
- うごくる。(環境文化都市づくりプラットフォーム)¹¹の取り組み
- 電気自動車(EV)の普及・促進
- どれも聞いたことがない

⑤ 日常生活の中で、環境やエネルギーに対して気をつけていることはありますか。当てはまるものにチェックをしてください。(複数回答可)*

- 買い物で必要なものを必要な量だけ買う
- 買い物でなるべく地元のものを買う
- 買い物で使い捨てるものより長く使えるものを選ぶ
- 買い物で詰め替え商品を選ぶ
- 野菜の皮や葉なども利用した調理をするなど、捨てる部分を減らす
- 外食時には食べきれぬ量に調節し、できるだけ残さないようにする
- すぐに食べるものは、賞味期限の短いものを積極的に購入し、廃棄量を減らす
- リサイクルショップやアプリを活用して、できるだけ再利用できるようにする
- できるだけ紙やプラスチックを燃やすごみから資源に分別する
- エネルギーを多く使う家電製品を同時に使用しない
- 近くの移動は徒歩や自転車を利用する
- 公共交通をできる限り利用するように心がける
- ごみのポイ捨てをしない
- 家の周囲の側溝のごみ拾いや除草作業を行い、ポイ捨てされにくい環境をつくる
- 身近な公園や道路などの都市的施設を、地元にある共有財産として丁寧に利用する
- 野良猫には餌付けをしない
- 水生生物観察会などで河川の水質に関心を持つ
- 森林でのアウトドアレジャーに親しむ
- 今ある自然環境について関心を持ち、里山保全活動に参加したり、里山を散策し、豊かな自然を楽しんだりする
- 地域や公民館などで開催される環境学習の場に積極的に参加する
- 特に気をつけていることはない

⑥ 普段の生活意識や行動について近きものをチェックしてください。(複数回答可)*

- 現在、ボランティア活動をしている。もしくは、近年に活動したことがある
- ボランティア活動の経験はないが、機会があればしたいと思っている
- 地域の行事・イベントなどにはよく参加する
- 地域における住民同士のふれあいを大切にしている
- 街の美化や景観の保全は大切だと思う
- 市民は外からの訪問者や観光客には気配りし、もてなすべきだ
- 地域の伝統や文化は大切であり、継承していくように努めている
- 地域に問題や課題を行政まかせにしないで、住民も一緒に考え行動すべき
- 地域の出来事には常に注意していて、さまざまな情報を見聞きするようにしている
- 災害時には住民の助け合いが必要であり、普段から準備・訓練をするべき
- 地域の寺・神社などの文化財は心のよりどころとして大切にすべき
- 落とし物を拾ったら必ず届ける
- 困っている人がいたら、声をかけて助ける
- 公共交通機関でお年寄りに席を譲る

⁸ ランドアバウト（環状交差点）…交差点の中央に円形地帯（中央島）が設けられた円形交差点の一種である。車両はこの中央島に沿った環状の道路（環道）を一方向に通行し、それぞれの道路に流出する。環道を走行する車両に優先権があることが最大の特徴であり、環道の交通流は信号機や一時停止などにより、中斷されない。

近年、欧米諸国では安全でエコな交差点の制御方式として、ランドアバウト（環状交差点）が積極的に導入されている。

⁹ ユネスコエコパーク（生物圏保存地域）…生物多様性の保護を目的に、ユネスコ人間と生物圏（MAB）計画（1971年に開始した、自然及び天然資源の持続可能な利用と保護に関する科学研究を行う政府間共同事業）の一環として1976年に開始された。

ユネスコエコパークは、豊かな生態系を有し、地域の自然資源を活用した持続可能な経済活動を進めるモデル地域である。

世界自然遺産が、顕著な普遍的価値を有する自然を厳格に保護することを主目的とするのに対し、ユネスコエコパークは自然保護と地域の人々の生活（人間の干渉を含む生態系の保全と経済社会活動）とが両立した持続的な発展を目指している。

認定地域は、域内の自然の成り立ちや、そこに育まれた歴史文化に対する理解を深めるほか、地域づくりの担い手を育成することが期待されている。また、世界ネットワークの一員として、認定地域同士の学び合いを通じてさらに取組を進めることが求められる。

¹⁰ 小水力発電所…一般河川、農業用水、砂防ダム、上下水道などで利用される水のエネルギーを利用し、水車を回すことで発電する方法。一般的には、河川に流れる水をダムに貯めることなく直接取水し、利用する「流れ込み式」の発電方式が採用される。

「小水力発電」について厳密な定義はないが、出力10,000kW～30,000kW以下を「中小水力発電」と呼ぶことが多く、出力1,000kW以下の比較的小規模な発電設備を総称して「小水力発電」と呼ぶこともある。また、100kW以下のものを特に「マイクロ水力発電」と呼ぶ。

¹¹ うごくる。(環境文化都市づくりプラットフォーム)…飯田市が目指す都市像として掲げる「環境文化都市」の実現に向け、令和3年6月に同市と、南信州地域振興局、飯田信用金庫の3者で設立した「環境文化都市づくりプラットフォーム（仮称）」が始まり。地元のコピーライター・佐々木公美子さんの協力も得て、名称を「うごくる。」に決定した。SDGsや地域課題の解決などに取り組む人を応援しながら、「うごくる。」として南信州エリア全体を対象に持続可能なまちづくりに取り組む。

当てはまるものはない

⑦ 飯田市に対して愛着はありますか。*

- ▶1.ある
- ▶2.どちらかといえばある
- ▶3.どちらでもない
- ▶4.どちらかといえない
- ▶5.ない

⑧ 環境問題やエネルギー問題に対して興味・関心はありますか。*

- ▶1.ある
- ▶2.どちらかといえばある
- ▶3.どちらでもない
- ▶4.どちらかといえない
- ▶5.ない

⑨ 飯田市の環境やエネルギーに対する取り組みについて意見や要望はありますか。（自由記述）

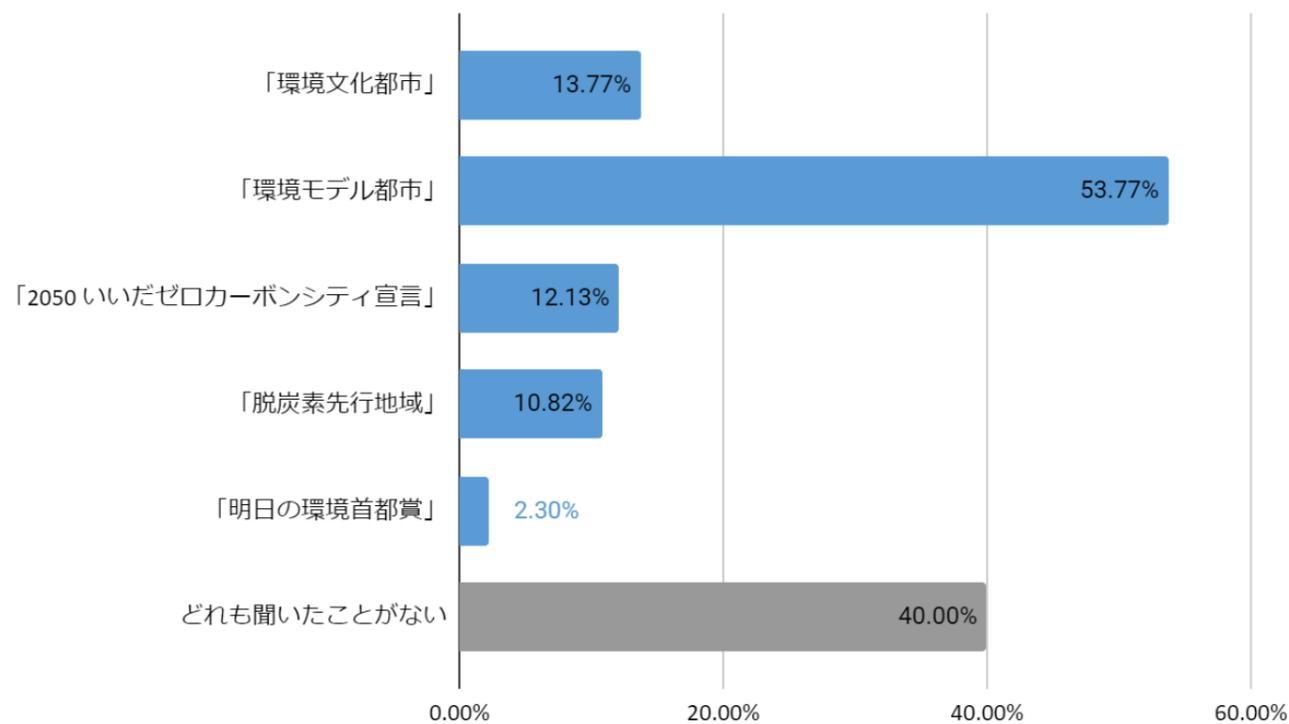
○現状を知る

◎設問③

- 飯田市の環境に関する都市宣言や国等から選定を受けているものとして「環境モデル都市」が最も聞かれたことがある
- 「環境モデル都市」以外の言葉はほとんど回答率が10%にとどまっている
- 選択個数が一個以下の人が78.03%と大多数を占めている

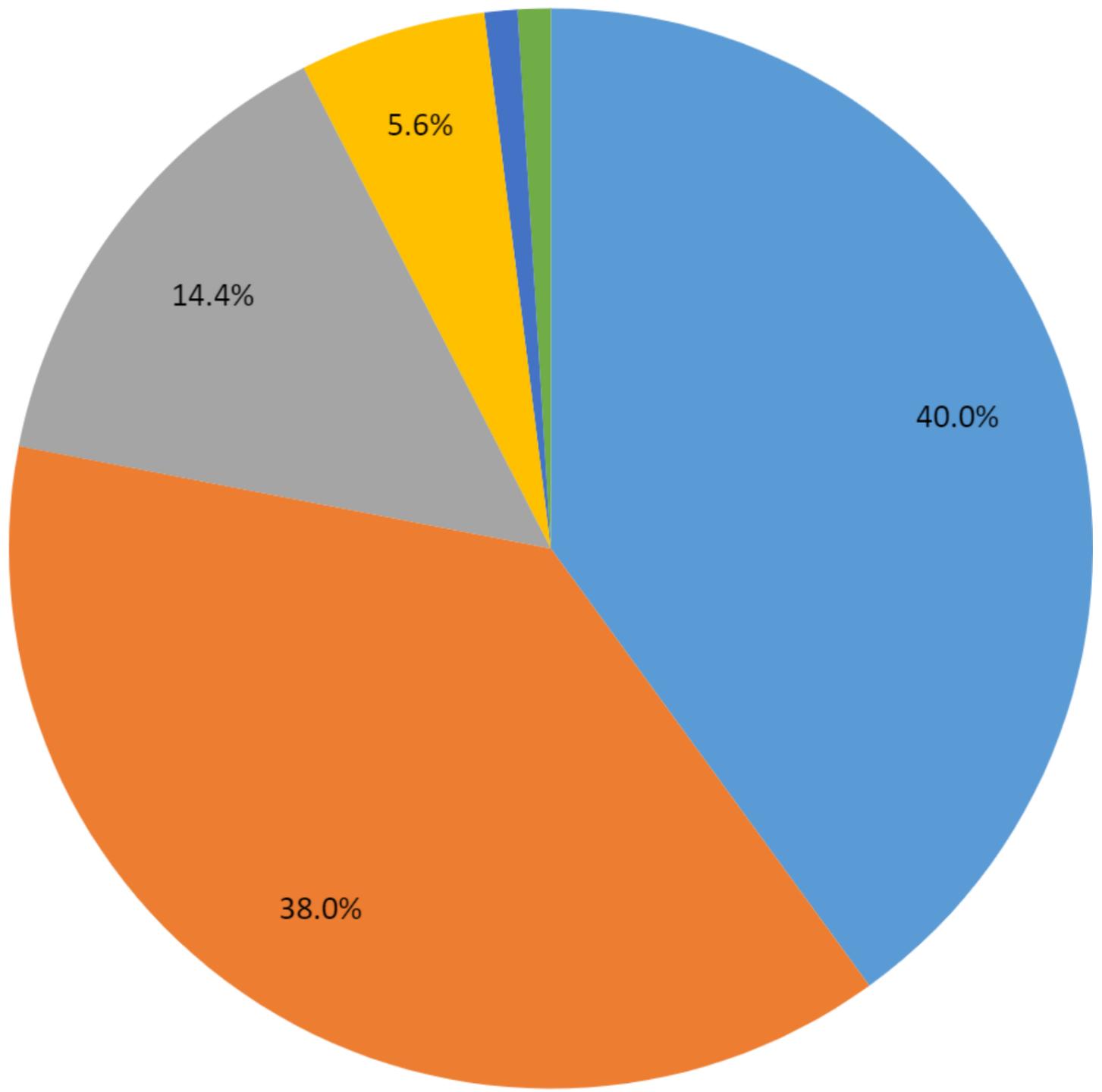
③ 飯田市の環境に関する都市宣言を定めたり、国等からさまざまな都市・地域として選定を受けたりしています。以下のなかで聞いたことがあるものにチェックをしてください。(複数回答可)

- ▶ 「環境文化都市」
42人 (13.77%)
- ▶ 「環境モデル都市」
164人 (53.8%)
- ▶ 「2050 いいだゼロカーボンシティ宣言」
37人 (12.1%)
- ▶ 「脱炭先行地域」
33人 (10.8%)
- ▶ 2010年の環境首都コンテストで「明日の環境首都賞」を受賞した
7人 (2.3%)
- ▶ どれも聞いたことがない
122人 (40%)



| 選択個数 | 人数 | 割合 |
|------------------|-----|--------|
| 0個 (どれも聞いたことがない) | 122 | 40.00% |
| 1個 | 116 | 38.03% |
| 2個 | 44 | 14.43% |
| 3個 | 17 | 5.57% |
| 4個 | 3 | 0.98% |
| 5個 | 3 | 0.98% |

- 0個
- 1個
- 2個
- 3個
- 4個
- 5個

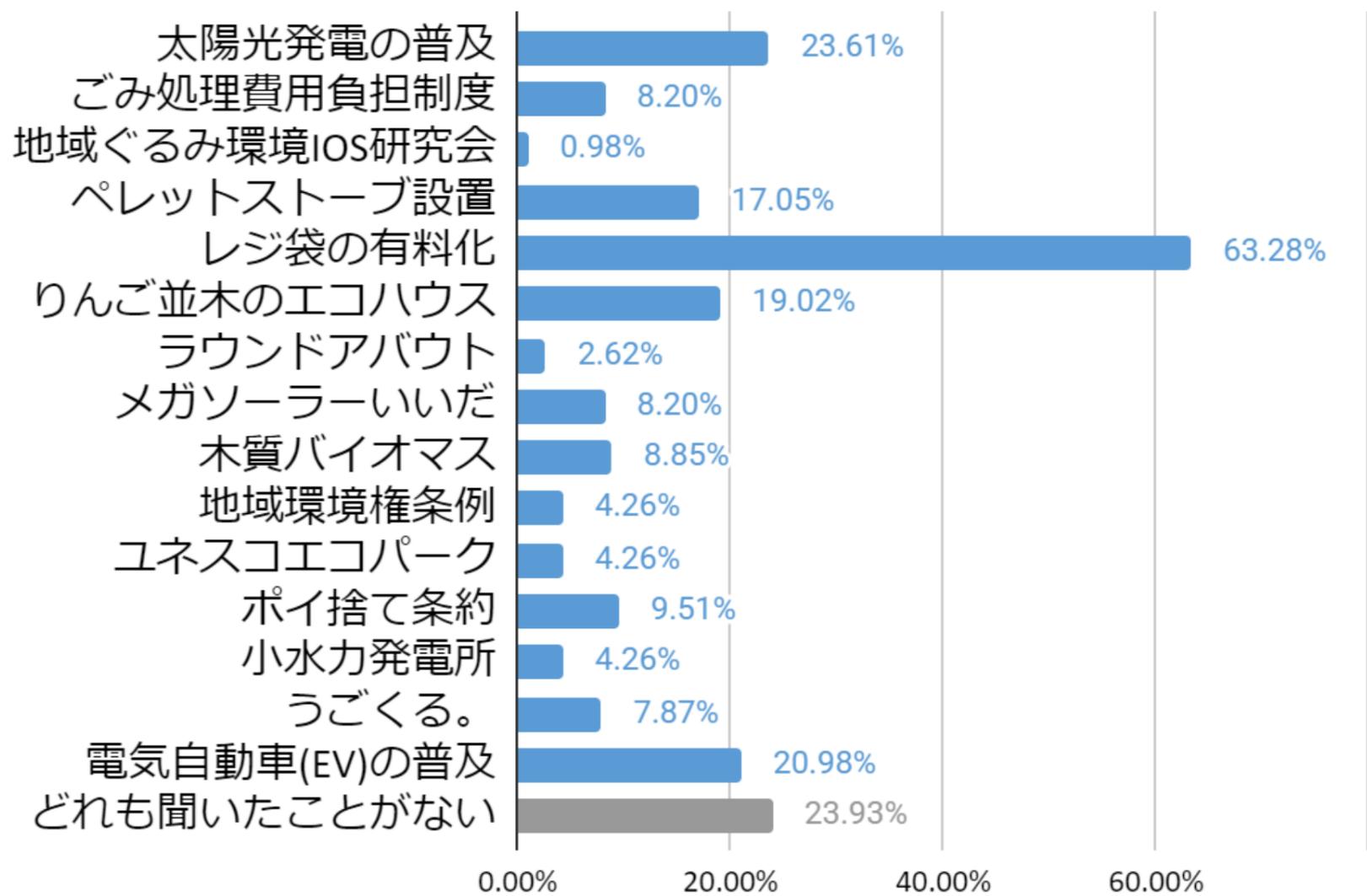


◎設問④

- 施設があるもの（「公共施設（学校、温泉施設など）のペレットストーブ設置」、「りんご並木のエコハウスの運営」）の回答率は20%近くある
- 市が補助金を出している取り組み（「太陽光発電の普及・促進」、「電気自動車（EV）の普及・促進」）の回答率も20%ほどあり、高い
- 「レジ袋の有料化（2009年）」の回答率が並外れて高いのは、2020年に全国一律で開始したレジ袋の有料化と勘違いされているからではないか
- 半数以上の人の選択個数が2個以下になっている

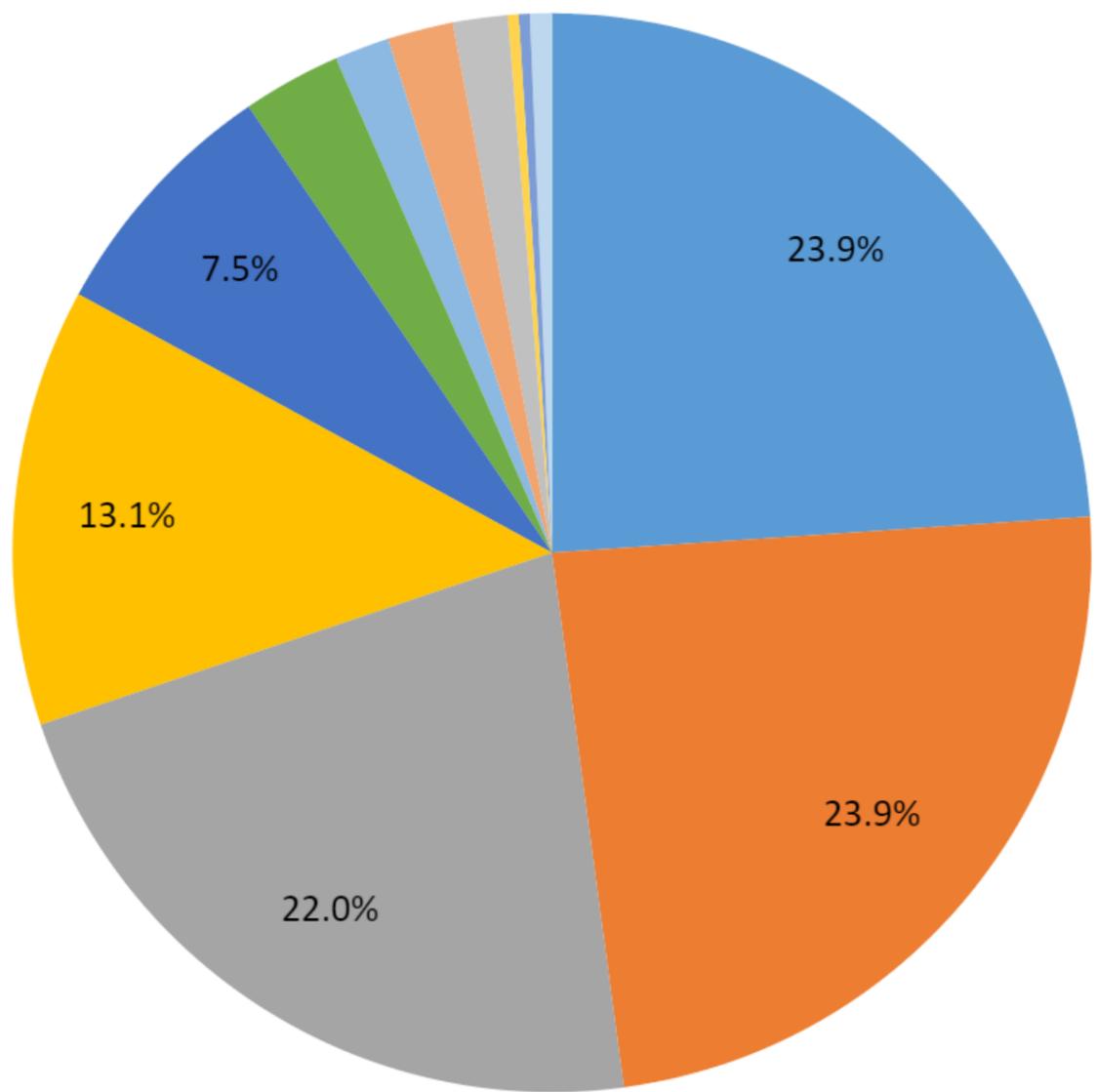
④ 飯田市が環境やエネルギーに対して今までに行なった取り組みとして聞いたことがあるものにチェックをしてください。(複数回答可)

- ▶ 太陽光発電の普及・促進
72人(23.61%)
- ▶ ごみ処理費用負担制度の導入（1990年）
25人(8.20%)
- ▶ 地域ぐるみ環境 IOS研究会の発足（1997年）
3人(0.98%)
- ▶ 公共施設（学校、温泉施設など）のペレットストーブ設置
52人(17.05%)
- ▶ レジ袋の有料化（2009年）
193人(63.28%)
- ▶ りんご並木のエコハウスの運営
58人(19.02%)
- ▶ ラウンドアバウトの導入（2011年）
8人(2.62%)
- ▶ メガソーラーいいだの設置（2011年）
25人(8.20%)
- ▶ 薪ストーブなど木質バイオマスの利活用推進
27人(8.85%)
- ▶ 地域環境権条例の制定（2013年）
13人(4.26%)
- ▶ 南アルプスがユネスコエコパークとして登録される（2014年）
13人(4.26%)
- ▶ ポイ捨て条約を制定した（2014年）
29人(9.51%)
- ▶ マイクロ水力発電所・小水力発電所の設置
13人(4.26%)
- ▶ うごくる。（環境文化都市づくりプラットフォーム）の取り組み
24人(7.87%)
- ▶ 電気自動車（EV）の普及・促進
64人(20.98%)
- ▶ どれも聞いたことがない
73人(23.93%)



| 選択個数 | 人数 | 割合 |
|------------------|----|--------|
| 0個 (どれも聞いたことがない) | 73 | 23.93% |
| 1個 | 73 | 23.93% |
| 2個 | 67 | 21.97% |
| 3個 | 40 | 13.11% |
| 4個 | 23 | 7.54% |
| 5個 | 9 | 2.95% |
| 6個 | 5 | 1.64% |
| 7個 | 6 | 1.97% |
| 8個 | 5 | 1.64% |
| 9個 | 1 | 0.33% |
| 10個 | 1 | 0.33% |
| 11個 | 0 | 0.00% |
| 12個 | 2 | 0.66% |
| 13個 | 0 | 0.00% |
| 14個 | 0 | 0.00% |
| 15個 | 0 | 0.00% |

- 0個
- 1個
- 2個
- 3個
- 4個
- 5個
- 6個
- 7個
- 8個
- 9個
- 10個
- 12個



◎「現状を知る」の考察

設問③（飯田市は環境に関する都市宣言を定めたり、国等からさまざまな都市・地域として選定を受けたりしています。以下のなかで聞いたことがあるものにチェックをしてください。）と設問④（飯田市が環境やエネルギーに対して今までに行なった取り組みとして聞いたことがあるものにチェックをしてください。）は、ともに選択個数を見てもらうと3個以上選択できた人が非常に少ないことが分かるだろう。設問③は、四割の人が「どれも聞いたことがない」を選択し、また四割の人が一個選択しているが、回答率から見てその一個は「環境モデル都市」と言うことができる。そのため、本当に飯田市が目指す都市像や選定を受けたことが市民には伝わっていないということがうかがえる。設問④は、「レジ袋の有料化」は2020年に全国的に行われたものと勘違いをして回答した人がいると仮定すると、選択個数にも大きな影響があるように思える。設問④も「どれも聞いたことがない」を選択した人が二割、一個選択した人が「レジ袋の有料化」を選択していたとすると、こちらも飯田市の取り組みについて知っている人はわずかであるということが出来る。

よって、飯田市の取り組みを知っている人が少数であることを考慮すると行政と市民の間にはギャップがあると言えそうだ。

◎考察から考えられる新しい仮説

- 「環境モデル都市」に選定されたのは十年ほど前のことなのに、過半数の人に聞かれたことがあるということは学校で聞く場面があったからなのではないか
- 補助金の出ている取り組みの回答率が高い（設問④）ということは、家族で太陽光パネルの設置や電気自動車の購入を検討している人が多い、もしくは節約家が多い

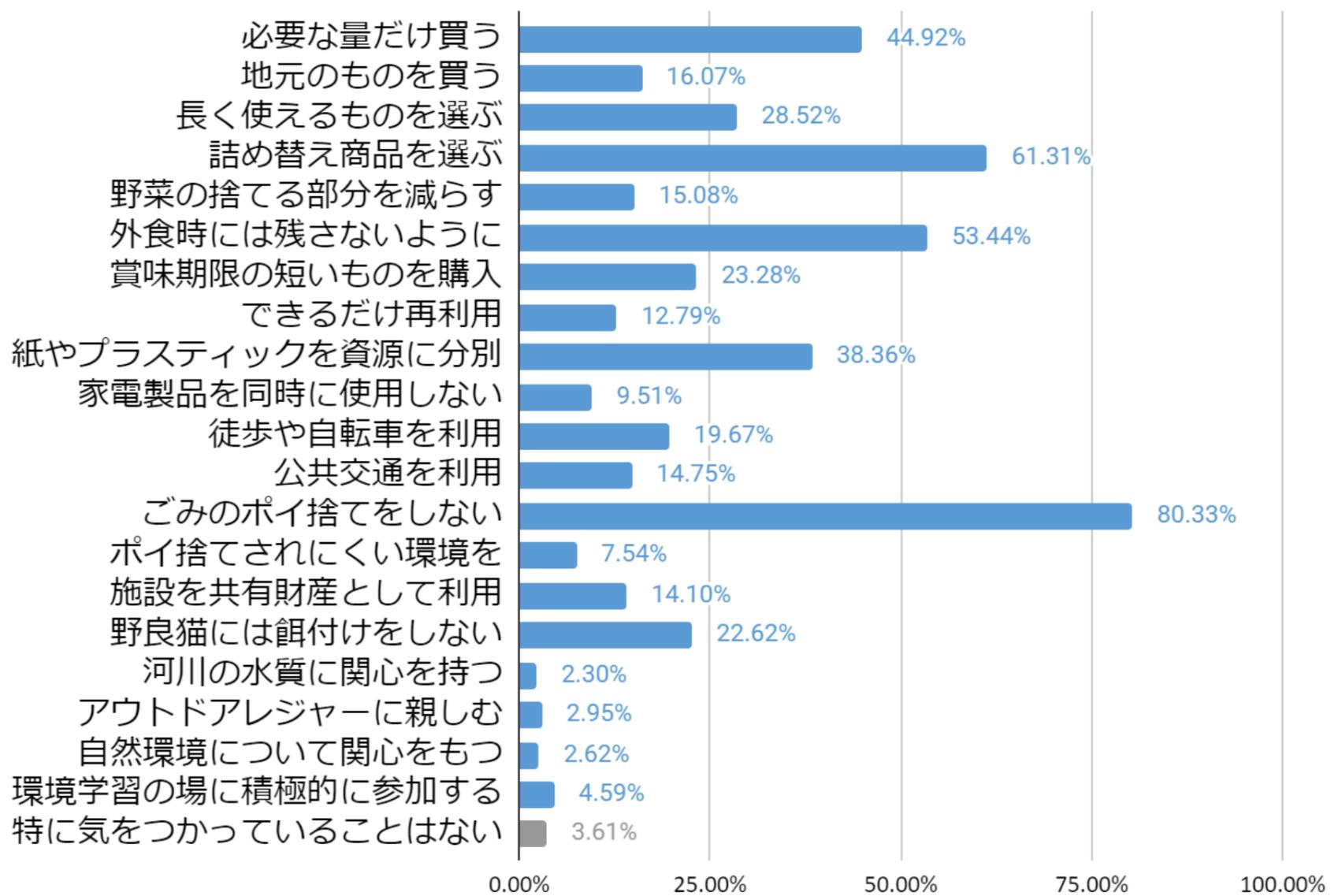
○設問ごとの考察

◎設問⑤

- 「ごみのポイ捨てをしない」の回答率が最も高い
- 項目ごとに回答率はさまざま
- 選択個数もバラバラである

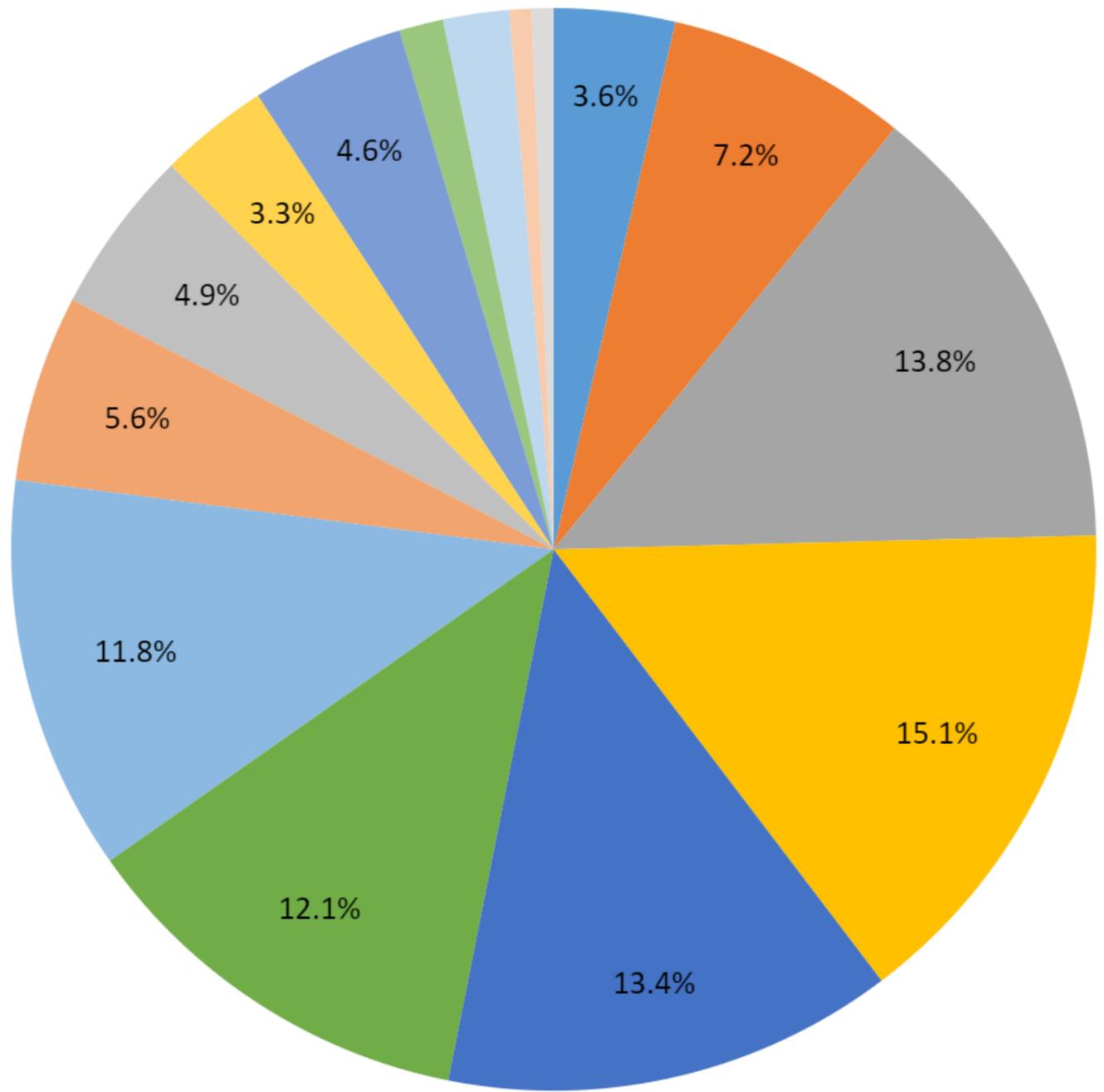
⑤ 日常生活の中で、環境やエネルギーに対して気をつけていることはありますか。当てはまるものにチェックをしてください。(複数回答可)

- ▶ 買い物で必要なものを必要な量だけ買う
137人(44.92%)
- ▶ 買い物でなるべく地元のものを買う
49人(16.07%)
- ▶ 買い物で使い捨てのものより長く使えるものを選ぶ
87人(28.52%)
- ▶ 買い物で詰め替え商品を選ぶ
187人(28.52%)
- ▶ 野菜の皮や葉なども利用した調理をするなど、捨てる部分を減らす
46人(15.08%)
- ▶ 外食時には食べきれる量に調節し、できるだけ残さないようにする
163人(53.44%)
- ▶ すぐに食べるものは、賞味期限の短いものを積極的に購入し、廃棄量を減らす
71人(23.28%)
- ▶ リサイクルショップやアプリを活用して、できるだけ利用できるようにする
39人(12.79%)
- ▶ できるだけ紙やプラスチックを燃やすごみから資源に分別する
117人(38.36%)
- ▶ エネルギーを多く使う家電製品を同時に使用しない
29人(9.51%)
- ▶ 近くの移動は徒歩や自転車を利用する
60人(19.67%)
- ▶ 公共交通をできる限り利用するように心がける
45人(14.75%)
- ▶ ごみのポイ捨てをしない
245人(80.33%)
- ▶ 家の周囲の側溝のごみ拾いや除草作業を行い、ポイ捨てされにくい環境をつくる
23人(7.54%)
- ▶ 身近な公園や道路などの都市的施設を、地元にある共有財産として丁寧に利用する
43人(14.10%)
- ▶ 野良猫には餌付けをしない
69人(22.62%)
- ▶ 水生生物観察会などで河川の水質に関心を持つ
7人(2.30%)
- ▶ 森林でのアウトドアレジャーに親しむ
9人(2.95%)
- ▶ 今ある自然環境について関心をもち、里山保全活動に参加したり、里山を散策し、豊かな自然を楽しんだりする
8人(2.62%)
- ▶ 地域や公民館などで開催される環境学習の場に積極的に参加する
14人(4.59%)
- ▶ 特に気をつけていることはない
11人(3.61%)



| 選択個数 | 人数 | 割合 |
|------------------|----|--------|
| 0個 (どれも聞いたことがない) | 11 | 3.61% |
| 1個 | 22 | 7.21% |
| 2個 | 42 | 13.77% |
| 3個 | 46 | 15.08% |
| 4個 | 41 | 13.44% |
| 5個 | 37 | 12.13% |
| 6個 | 36 | 11.80% |
| 7個 | 17 | 5.57% |
| 8個 | 15 | 4.92% |
| 9個 | 10 | 3.28% |
| 10個 | 14 | 4.59% |
| 11個 | 4 | 1.31% |
| 12個 | 6 | 1.97% |
| 13個 | 2 | 0.66% |
| 14個 | 2 | 0.66% |
| 15個 | 0 | 0.00% |
| 16個 | 0 | 0.00% |
| 17個 | 0 | 0.00% |
| 18個 | 0 | 0.00% |
| 19個 | 0 | 0.00% |
| 20個 | 0 | 0.00% |

- 0個
- 1個
- 2個
- 3個
- 4個
- 5個
- 6個
- 7個
- 8個
- 9個
- 10個
- 11個
- 12個
- 13個
- 14個

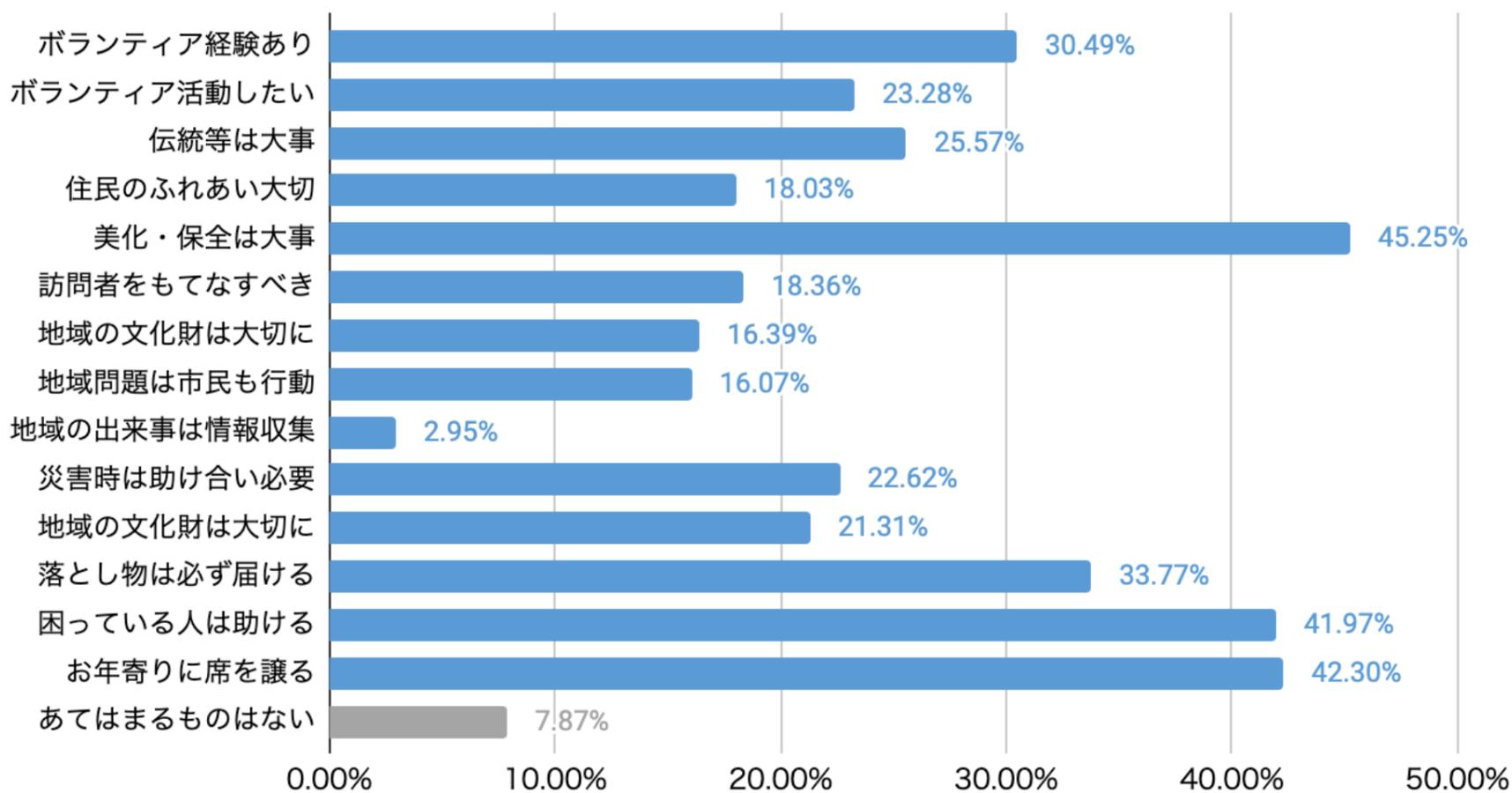


◎設問⑥

- 「地域の出来事には常に注意していて、さまざまな情報を見聞きするようにしている」の回答率が、他の項目と比べると異様に低い

⑥ 普段の生活意識や行動について近いものをチェックしてください。（複数回答可）

- ▶現在、ボランティア活動をしている。もしくは、近年に活動したことがある
93人(30.49%)
- ▶ボランティア活動の経験はないが、機会があればしたいと思っている
71人(23.28%)
- ▶地域の行事・イベントなどにはよく参加する
78人(25.52%)
- ▶地域における住民同士のふれあいを大切にしている
55人(18.03%)
- ▶街の美化や景観の保全は大切だと思う
138人(45.25%)
- ▶市民は外からの訪問者や観光客には気配りし、もてなすべきだ
56人(18.36%)
- ▶地域の伝統や文化は大切であり、継承していくように努めている
50人(16.39%)
- ▶地域に問題や課題を行政まかせにしないで、住民も一緒に考え行動すべき
49人(16.07%)
- ▶地域の出来事には常に注意していて、さまざまな情報を見聞きするようにしている
9人(2.95%)
- ▶災害時には住民の助け合いが必要であり、普段から準備・訓練をするべき
69人(22.62%)
- ▶地域の寺・神社などの文化財は心のよりどころとして大切にすべき
65人(21.31%)
- ▶落とし物を拾ったら必ず届ける
103人(33.77%)
- ▶困っている人がいたら、声をかけて助ける
128人(41.97%)
- ▶公共交通機関でお年寄りに席を譲る
129人(42.30%)
- ▶当てはまるものはない
24人(7.87%)

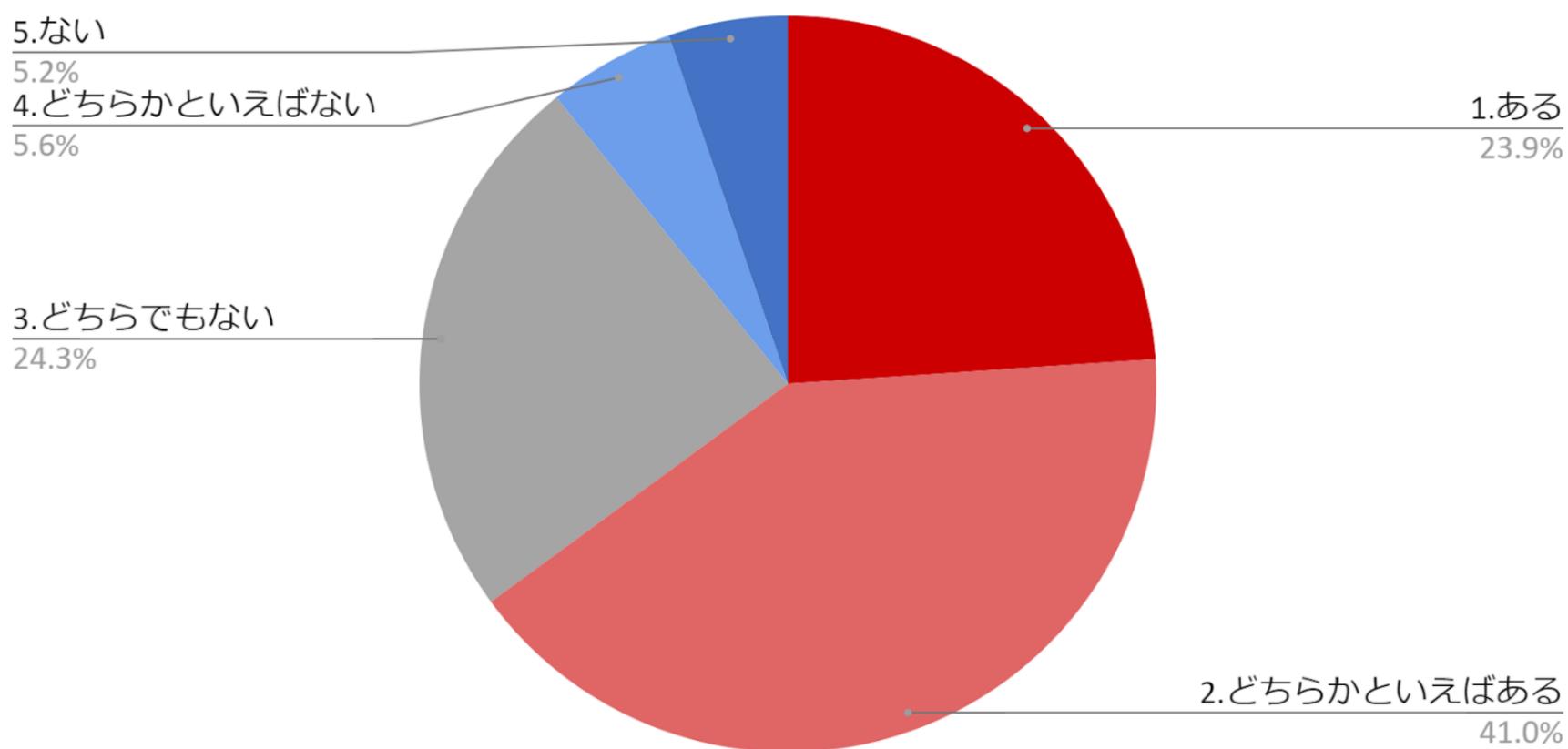


◎設問⑦

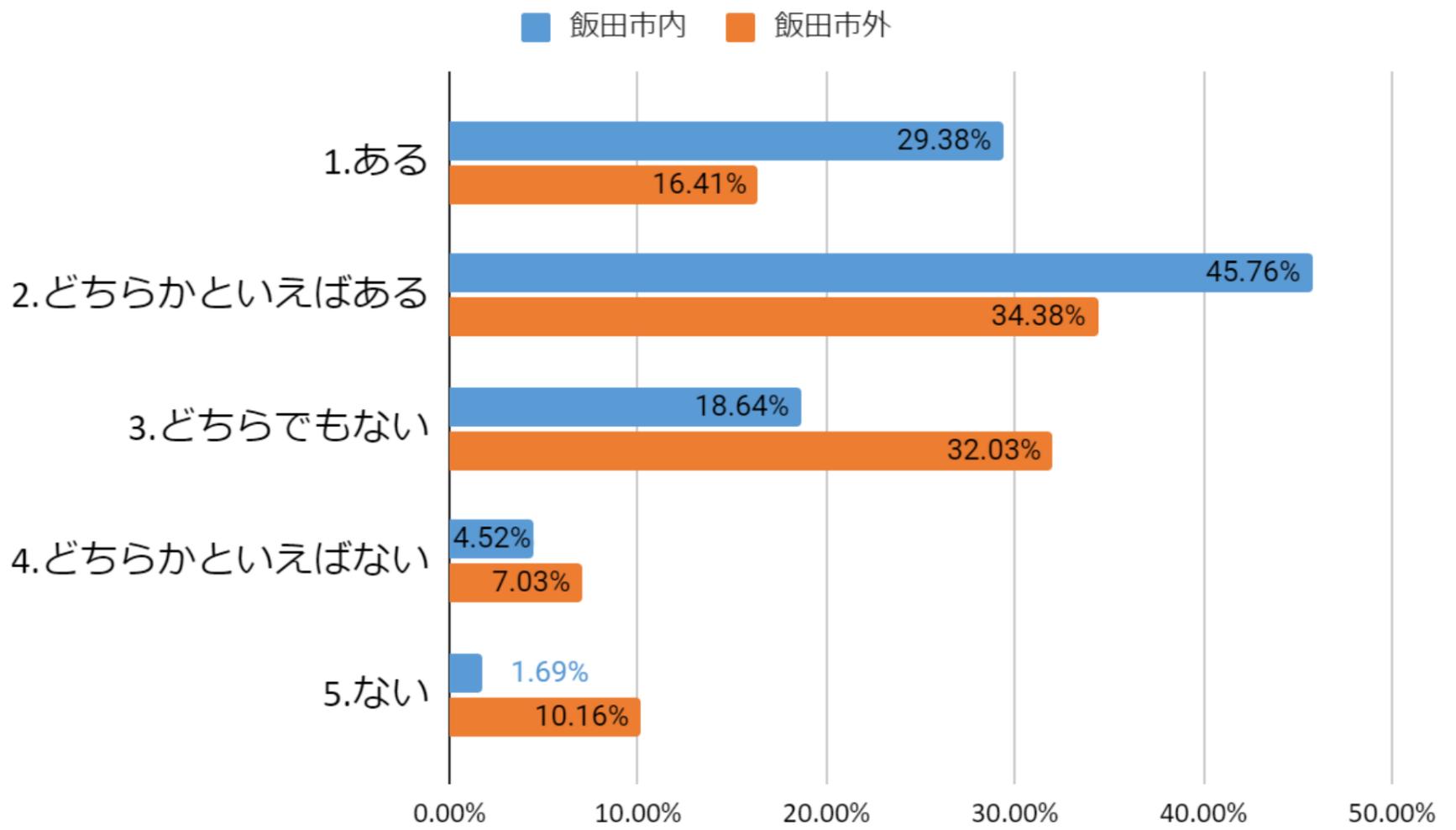
- 「ある」、「どちらかといえばある」が多数
- 飯田市に住んでいる人の方が飯田市に愛着を感じている

⑦ 飯田市に対して愛着はありますか。

- ▶1.ある 73人(23.93%)
- ▶2.どちらかといえばある 125人(40.98%)
- ▶3.どちらでもない 74人(24.26%)
- ▶4.どちらかといえばない 17人(5.57%)
- ▶5.ない 16人(5.25%)



| | 飯田市内 | 割合 | 飯田市外 | 割合 |
|--------------|------|--------|------|--------|
| 1.ある | 52 | 29.38% | 21 | 16.41% |
| 2.どちらかといえばある | 81 | 45.76% | 44 | 34.38% |
| 3.どちらでもない | 33 | 18.64% | 41 | 32.03% |
| 4.どちらかといえばない | 8 | 4.52% | 9 | 7.03% |
| 5.ない | 3 | 1.69% | 13 | 10.16% |

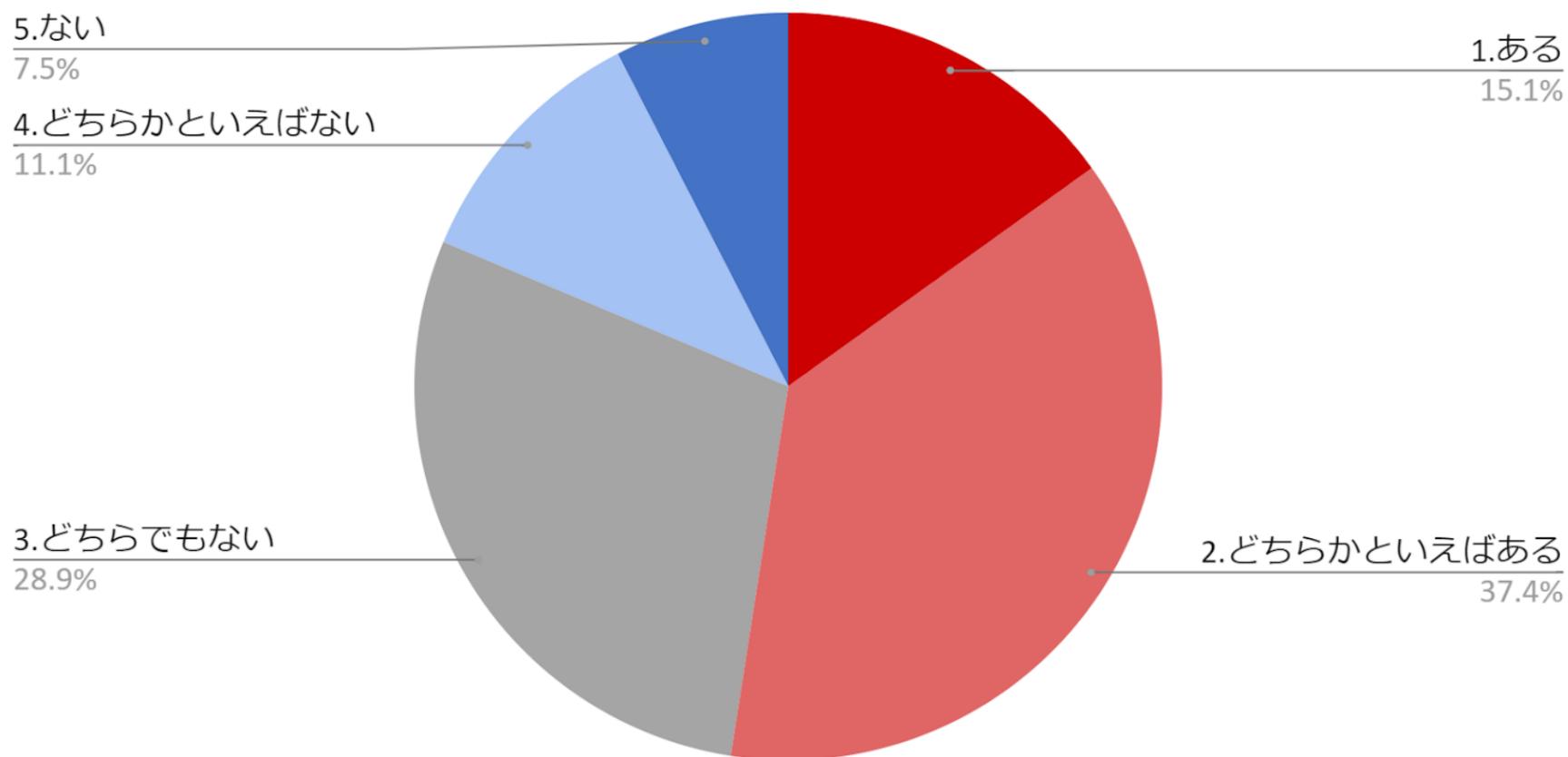


◎設問⑧

- 「ある」、「どちらかといえばある」の回答率の方が多い

⑧ 環境問題やエネルギー問題に対して興味・関心はありますか。

- ▶1.ある 46人(15.08%)
- ▶2.どちらかといえばある 114人(37.38%)
- ▶3.どちらでもない 88人(28.85%)
- ▶4.どちらかといえばない 34人(11.15%)
- ▶5.ない 23人(7.54%)



◎設問⑨

- 回答してくれた人が305人中8人だった
- そもそも飯田市の環境に対する取り組みに無関心な人が多いため、書きづらい問いになってしまった

◎ 飯田市の環境やエネルギーに対する取り組みについて意見や要望はありますか。（自由記述）

- リーダーシップを取って、飯田下伊那に広げて欲しいです。
- 飯田市に住んでいないからかもしれませんが、環境やエネルギーに対する取り組みについて何をしているのか知らないことが多いので、もっとどんな活動をしているか知る機会があると環境を意識するきっかけになりいいと思う
- 私は1年次に飯田市の環境普及活動を探究活動の一環として行っていたのですが、取り組みを知っている人があまりにも少なく、活動に参加している人や団体が限られていることを実感しました。そこで、わざわざ何かの活動に参加しなくても環境に関する情報を手に入れられるような取り組みやプラットフォームなどがあったら良いと思います。
- リニアなどが出来ても、環境が壊されることのないようにして欲しい。
- 正直、飯田市が環境やエネルギーに対して、どのような取り組みをしているのか良く知りません。まず、住民に取り組み自体を知ってもらうように活動したら良いと思います。
- 制限のしすぎはよくないと思うけど、今までしてきた取り組みはいい事だと思う。
- 飯田市の環境 学生が暮らしやすい環境をもっと作って欲しい
- 飯田市の環境やエネルギーに関係しているかはわからないが、強歩大会で走っている時に歩道に 草やら枝が散乱しているのを見て、歩きにくいうえに見栄えも悪く、残念に思った。菓子の袋などのゴミが落ちているのも、なんとも言えない気持ちになった。

○仮説に対する考察

◎仮説

飯田下伊那に住む人がなぜ飯田市の環境に対する取り組みを知らないのか

① 市民じゃない人に伝わっていないだけで、市民には伝わっている

iijo IEA girl'sの飯田市内に住んでいる人は飯田市の取り組みについてよく知っており、私が考えているよりも行政と市民のギャップは深刻な状態ではないのかもしれないと思ったことから考案

② 行政に対する不信感がある

市役所の方の「どうせ、行政の言う事なんて聞きたくないでしょ」という発言から考案

③ 環境問題やエネルギー問題に取り組むことが「当たり前」になっている

私たち（高校生）が生まれる前から飯田市は取り組みを行っていることから考案

④ 飯田市に愛着がない

飯田市自体のことが好きではなかったら、飯田市の取り組みを知るまでには至らないのではないかというところから考案

⑤ もともと環境問題やエネルギー問題に対する関心が薄い

iijo IEA girl'sはこの探究活動を通して飯田市が環境モデル都市であることを知ったので、そもそも環境問題に関心がなければ飯田市の取り組みを知るまでには至らないのではないかというところから考案

⑥ モラルが低い

飯田市の『飯田市環境基本計画 21'いいだ環境プラン 第5時改訂版』に「近年の通報には、環境汚染までには至らないものの、原因者のマナーや近隣との関わりが希薄化していることが原因と見られる事案が数多くある」との記載があり、モラルと認知や行動には関係があるのではないかと思ったことから考案

※ここで言う「モラル」とは市民としての規範的な考え方・行動を指す

仮説①

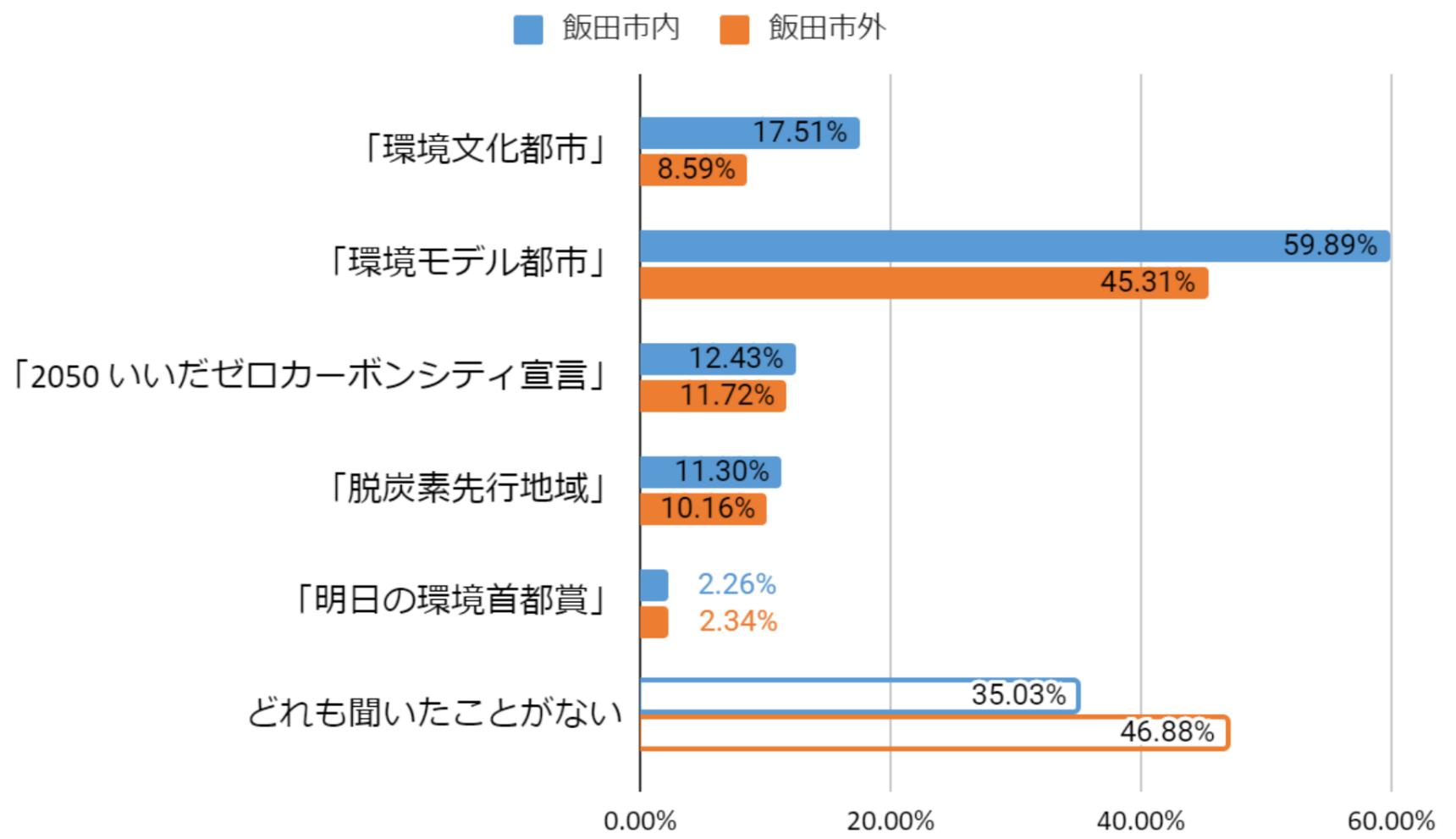
① 市民じゃない人に伝わっていないだけで、市民には伝わっている

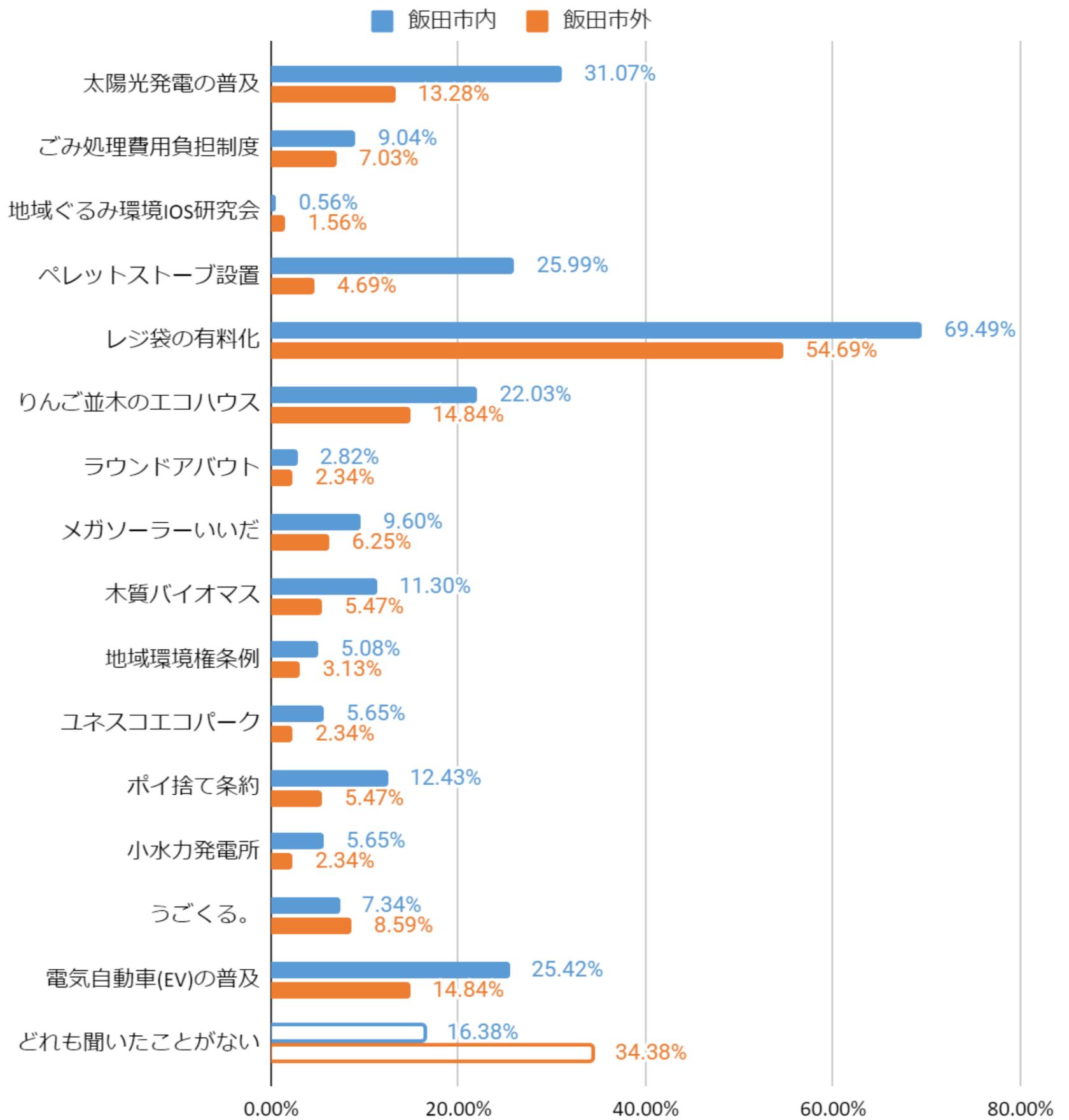
→ それぞれの項目で見た時は、飯田市内に住む人の回答率の方がほとんど飯田市外に住む人の回答率より高い。また、選択個数で見た時でも、一個以下を選択した人は飯田市内では25.42%、飯田市外では45.31%と圧倒的に飯田市外の選択個数が少ないことが分かる。よって、市民には飯田市の取り組みは伝わっていて市民じゃない人には伝わっていないという状況がありそうだ。だが、そもそも市民にもあまり取り組みが伝わっていない現状があるので、取り組みを知らない市民よりもさらに市民じゃない人には伝わっていないと言えそうだ。

- 飯田市の環境に関する都市宣言や国等から選定を受けているものについての認知度は飯田市内と飯田市外だと「環境文化都市」、「環境モデル都市」以外だとそんなに変わらない
- 「環境文化都市」、「太陽光発電の普及」、「ペレットストーブ設置」、「木質バイオマス」、「ユネスコエコパーク」、「ポイ捨て条約」、「小水力発電所」の回答率は飯田市内の方が2倍以上高い

「環境モデル都市」を市内外でいつ聞く場面があったのか

| | | 飯田市内 | | 飯田市外 | | 割合高/割合低 |
|-----|-----------------------|------|--------|------|--------|---------|
| | | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 | |
| 設問③ | 「環境文化都市」 | 31 | 17.51% | 11 | 8.59% | 2.04 |
| | 「環境モデル都市」 | 106 | 59.89% | 58 | 45.31% | 1.32 |
| | 「2050 いいだゼロカーボンシティ宣言」 | 22 | 12.43% | 15 | 11.72% | 1.06 |
| | 「脱炭素先行地域」 | 20 | 11.30% | 13 | 10.16% | 1.11 |
| | 「明日の環境首都賞」 | 4 | 2.26% | 3 | 2.34% | 1.04 |
| | どれも聞いたことがない | 62 | 35.03% | 60 | 46.88% | 1.34 |
| 設問④ | 太陽光発電の普及 | 55 | 31.07% | 17 | 13.28% | 2.34 |
| | ごみ処理費用負担制度 | 16 | 9.04% | 9 | 7.03% | 1.29 |
| | 地域ぐるみ環境IOS研究会 | 1 | 0.56% | 2 | 1.56% | 2.77 |
| | ペレットストーブ設置 | 46 | 25.99% | 6 | 4.69% | 5.54 |
| | レジ袋の有料化 | 123 | 69.49% | 70 | 54.69% | 1.27 |
| | りんご並木のエコハウス | 39 | 22.03% | 19 | 14.84% | 1.48 |
| | ラウンドアバウト | 5 | 2.82% | 3 | 2.34% | 1.21 |
| | メガソーラーいいだ | 17 | 9.60% | 8 | 6.25% | 1.54 |
| | 木質バイオマス | 20 | 11.30% | 7 | 5.47% | 2.07 |
| | 地域環境権条例 | 9 | 5.08% | 4 | 3.13% | 1.63 |
| | ユネスコエコパーク | 10 | 5.65% | 3 | 2.34% | 2.41 |
| | ポイ捨て条約 | 22 | 12.43% | 7 | 5.47% | 2.27 |
| | 小水力発電所 | 10 | 5.65% | 3 | 2.34% | 2.41 |
| | うごくる。 | 13 | 7.34% | 11 | 8.59% | 1.17 |
| | 電気自動車(EV)の普及 | 45 | 25.42% | 19 | 14.84% | 1.71 |
| | どれも聞いたことがない | 29 | 16.38% | 44 | 34.38% | 2.10 |

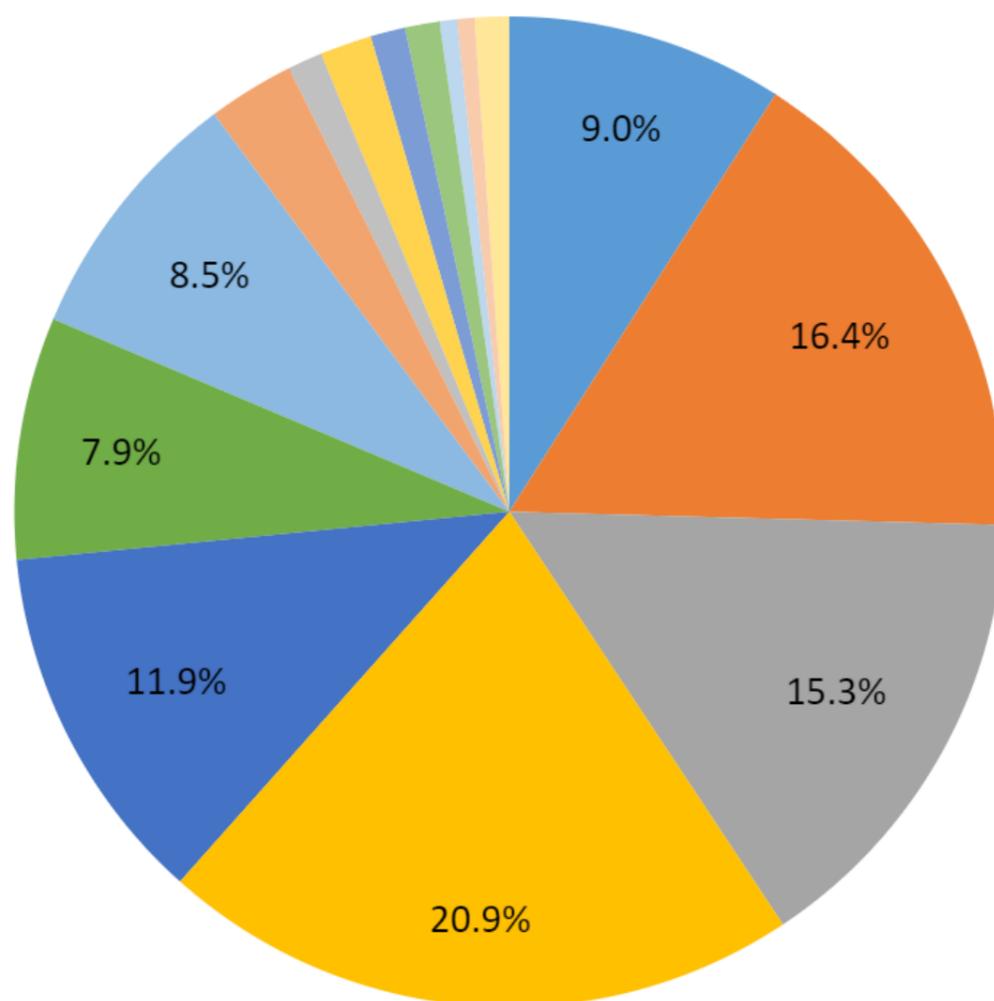




| 選択個数 | 飯田市内 | 割合 | 飯田市外 | 割合 |
|------------------|------|--------|------|--------|
| 0個 (どれも聞いたことがない) | 16 | 9.04% | 28 | 21.88% |
| 1個 | 29 | 16.38% | 30 | 23.44% |
| 2個 | 27 | 15.25% | 25 | 19.53% |
| 3個 | 37 | 20.90% | 20 | 15.63% |
| 4個 | 21 | 11.86% | 12 | 9.38% |
| 5個 | 14 | 7.91% | 5 | 3.91% |
| 6個 | 15 | 8.47% | 2 | 1.56% |
| 7個 | 5 | 2.82% | 1 | 0.78% |
| 8個 | 2 | 1.13% | 2 | 1.56% |
| 9個 | 3 | 1.69% | 0 | 0.00% |
| 10個 | 2 | 1.13% | 0 | 0.00% |
| 11個 | 2 | 1.13% | 2 | 1.56% |
| 12個 | 1 | 0.56% | 0 | 0.00% |
| 13個 | 1 | 0.56% | 0 | 0.00% |
| 14個 | 0 | 0.00% | 0 | 0.00% |
| 15個 | 2 | 1.13% | 0 | 0.00% |
| 16個 | 0 | 0.00% | 0 | 0.00% |
| 17個 | 0 | 0.00% | 1 | 0.78% |
| 18個 | 0 | 0.00% | 0 | 0.00% |
| 19個 | 0 | 0.00% | 0 | 0.00% |
| 20個 | 0 | 0.00% | 0 | 0.00% |

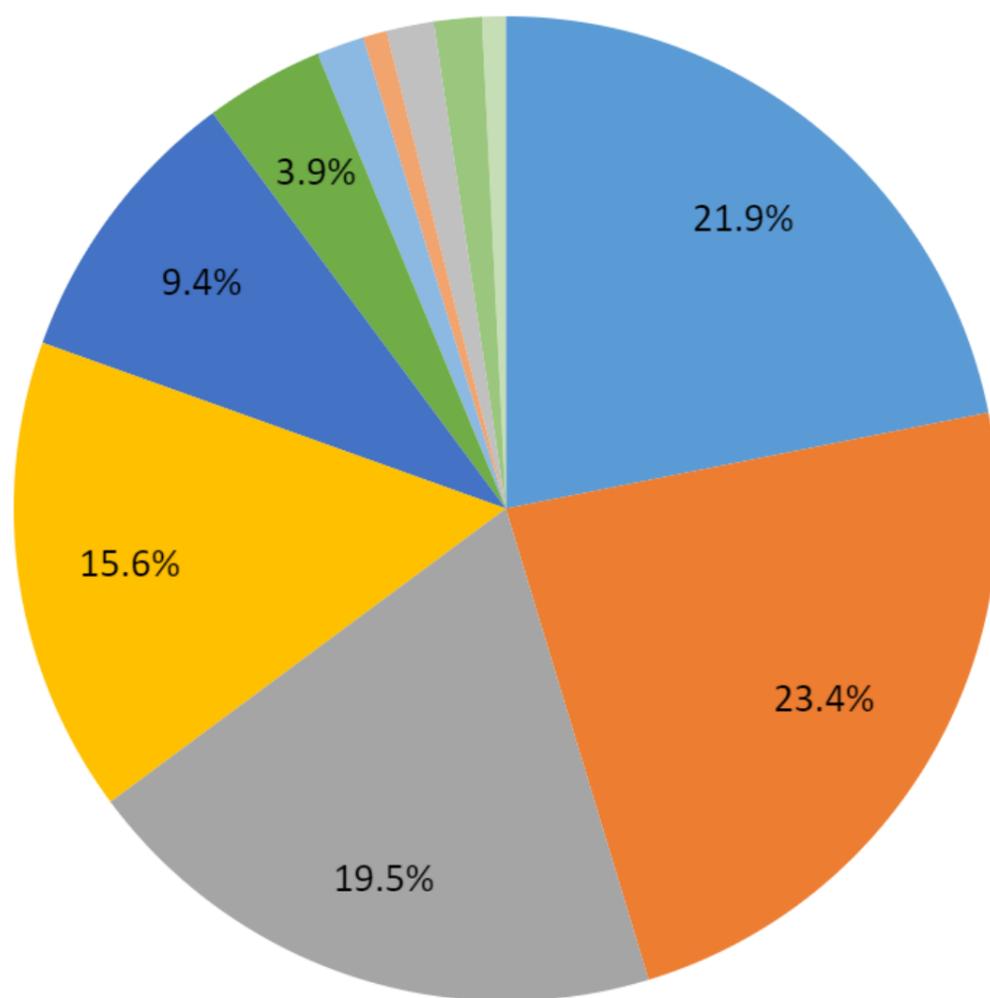
飯田市内

- 0個
- 1個
- 2個
- 3個
- 4個
- 5個
- 6個
- 7個
- 8個
- 9個
- 10個
- 11個
- 12個
- 13個
- 15個



飯田市外

- 0個
- 1個
- 2個
- 3個
- 4個
- 5個
- 6個
- 7個
- 8個
- 11個
- 17個



仮説②

② 行政に対する不信感がある

→ 回答率が低すぎるため、結果を判断することはできない。そもそも市民は飯田市の環境に対する取り組みをあまり周知していないのに、誰もが答えやすいように抽象的な問いにしたことが逆に仇となってしまった。もっと回答しやすくするために、直接聞くなどの工夫が必要だった。

もっと誰もが回答しやすい問いや文言にするべきだった

⑨ 飯田市の環境やエネルギーに対する取り組みについて意見や要望はありますか。（自由記述）

- リーダーシップを取って、飯田下伊那に広げて欲しいです。
- 飯田市に住んでいないからかもしれませんが、環境やエネルギーに対する取り組みについて何をしているのか知らないことが多いので、もっとどんな活動をしているか知る機会があると環境を意識するきっかけになりいいと思う
- 私は1年次に飯田市の環境普及活動を探究活動の一環として行っていたのですが、取り組みを知っている人があまりにも少なく、活動に参加している人や団体が限られていることを実感しました。そこで、わざわざ何かの活動に参加しなくても環境に関する情報を手に入れられるような取り組みやプラットフォームなどがあったら良いと思います。
- リニアなどが出来ても、環境が壊されることのないようにして欲しい。
- 正直、飯田市が環境やエネルギーに対して、どのような取り組みをしているのか良く知りません。まず、住民に取り組み自体を知ってもらうように活動したら良いと思います。
- 制限のしすぎはよくないと思うけど、今までしてきた取り組みはいい事だと思う。
- 飯田市の環境 学生が暮らしやすい環境をもっと作って欲しい
- 飯田市の環境やエネルギーに関係しているかはわからないが、強歩大会で走っている時に歩道に 草やら枝が散乱しているのを見て、歩きにくいうえに見栄えも悪く、残念に思った。菓子の袋などのゴミが落ちているのも、なんとも言えない気持ちになった。

仮説③

③ 環境問題やエネルギー問題に取り組むことが「当たり前」になっている

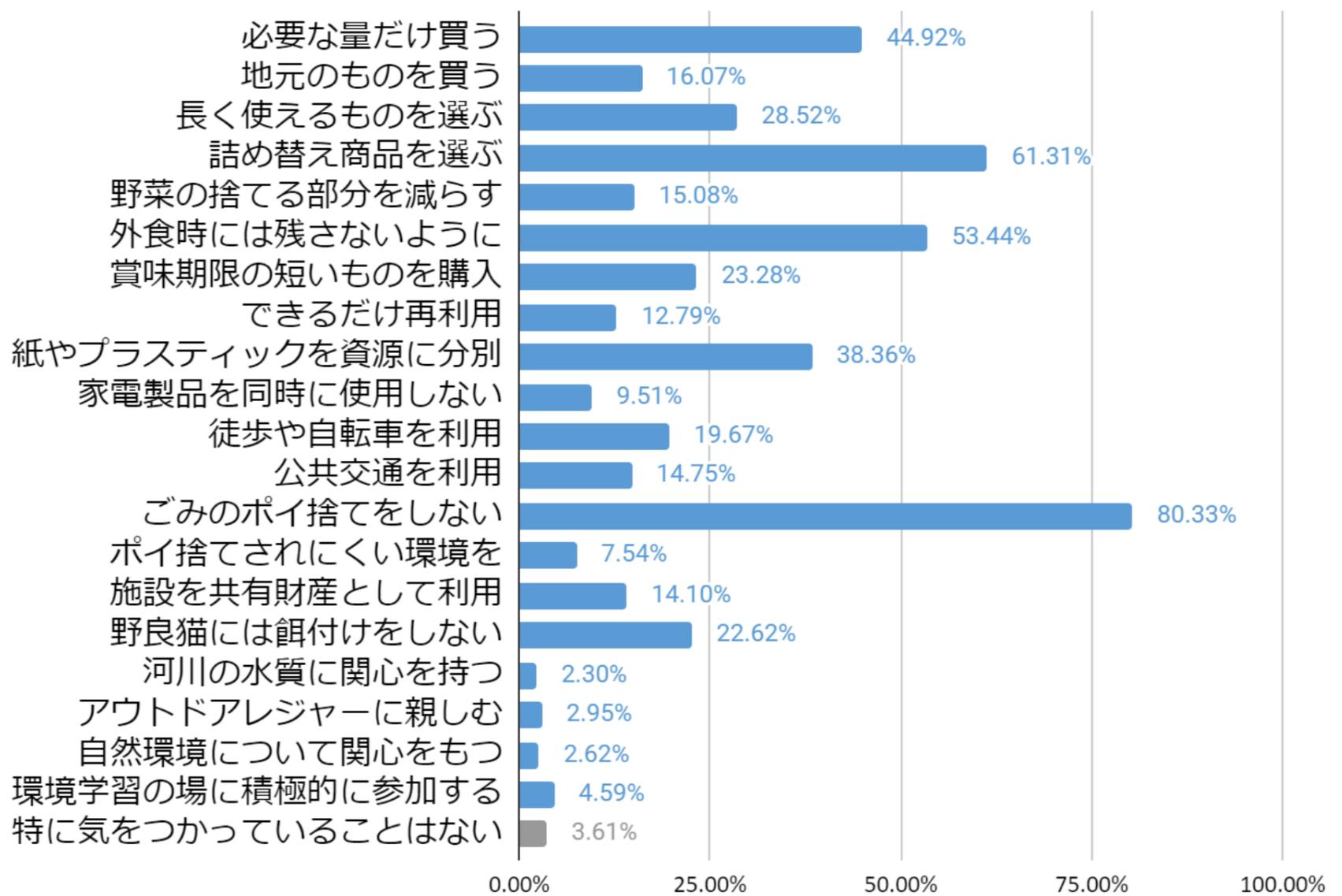
→ 全体的に飯田市内に住む人の回答率の方が高い。4項目が飯田市外に住む人より回答率が約2倍高いが、その他の項目はあまり差がない。そのため、飯田市内に住むの方が環境問題には積極的に取り組んでいるかもしれない。だが、「当たり前」と呼べる程度だと飯田市外に住む人とさらに差が生まれると思うので、それが「当たり前」と呼べる範囲にはまだ達していないように思える。また、飯田市外に住むの方が環境学習や環境問題に関心を持っていることが分かった。

- 全体的に飯田市内に住む人の回答率が高い
- 「公共交通をできる限り利用するように心がける」、「ごみのポイ捨てをしない」、「水生生物観察会などで河川の水質に関心を持つ」、「今ある自然環境について関心を持ち、里山保全活動に参加したり、里山を散策し、豊かな自然を楽しんだりする」、「地域や公民館などで開催される環境学習の場に積極的に参加する」は飯田市以外に住んでいる人の方が回答率が高い
- 「買い物で使い捨てるものより長く使えるものを選ぶ」、「野菜の皮や葉なども利用した調理をするなど、捨てる部分を減らす」、「すぐに食べるものは、賞味期限の短いものを積極的に購入し、廃棄量を減らす」、「リサイクルショップやアプリを活用して、できるだけ利用できるようにする」、「家の周囲の側溝のごみ拾いや除草作業を行い、ポイ捨てされにくい環境をつくる」の回答率は飯田市内の方が1.5倍以上高く、「今ある自然環境について関心を持ち、里山保全活動に参加したり、里山を散策し、豊かな自然を楽しんだりする」の回答率は飯田市外の方が2倍高い

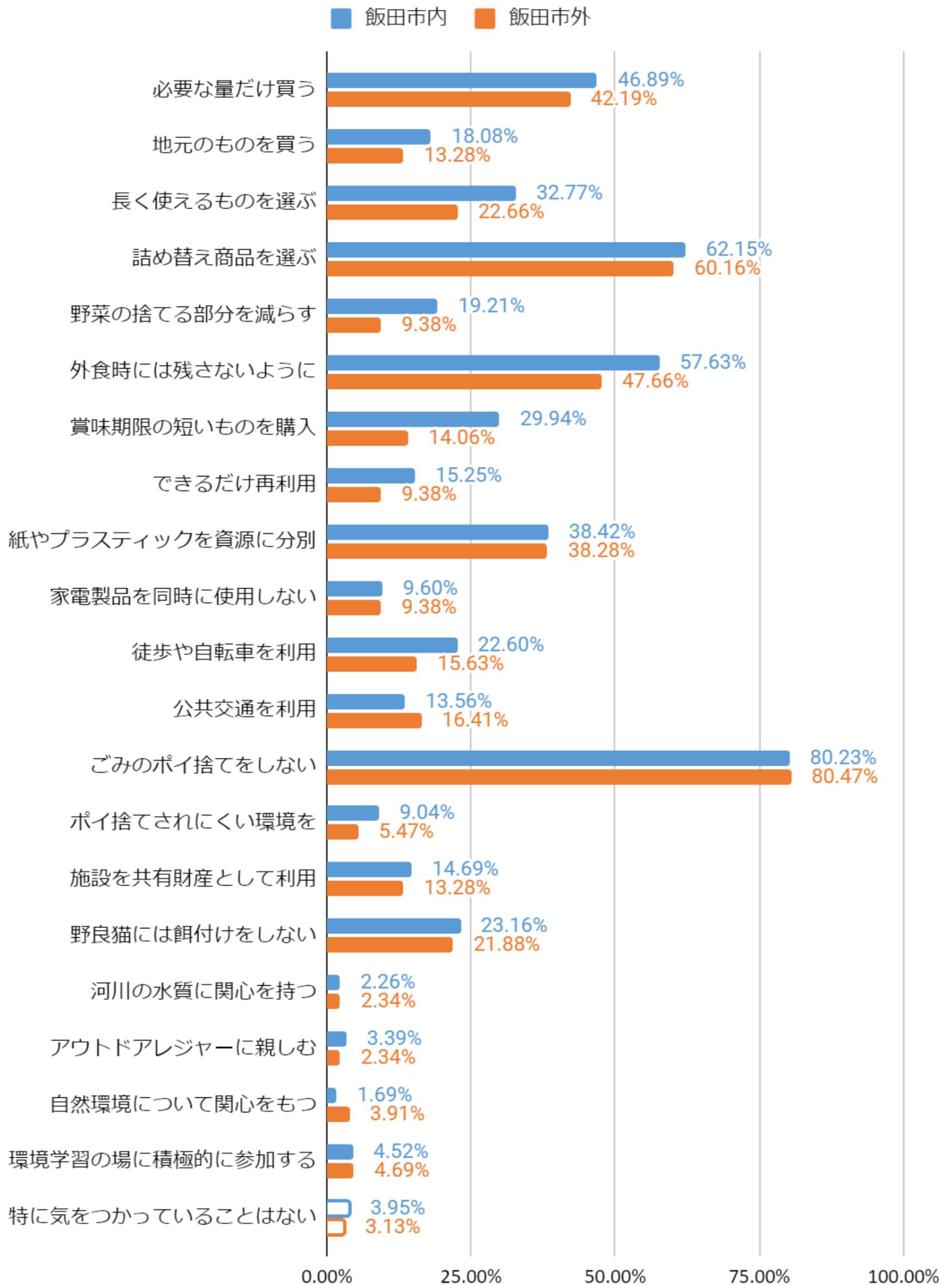
- 飯田市内に住むの方が物を大切にしている
- 飯田市内に住むの方が食に対して何らかのこだわりがある
- 飯田市内に住むの方が環境への美化に積極的
- 飯田市外に住むの方が環境学習が進んでいる

⑤ 日常生活の中で、環境やエネルギーに対して気をつけていることはありますか。当てはまるものにチェックをしてください。(複数回答可)

- ▶ 買い物で必要なものを必要な量だけ買う
137人(44.92%)
- ▶ 買い物でなるべく地元のものを買う
49人(16.07%)
- ▶ 買い物で使い捨てるものより長く使えるものを選ぶ
87人(28.52%)
- ▶ 買い物で詰め替え商品を選ぶ
187人(28.52%)
- ▶ 野菜の皮や葉なども利用した調理をするなど、捨てる部分を減らす
46人(15.08%)
- ▶ 外食時には食べきれる量に調節し、できるだけ残さないようにする
163人(53.44%)
- ▶ すぐに食べるものは、賞味期限の短いものを積極的に購入し、廃棄量を減らす
71人(23.28%)
- ▶ リサイクルショップやアプリを活用して、できるだけ利用できるようにする
39人(12.79%)
- ▶ できるだけ紙やプラスチックを燃やすごみから資源に分別する
117人(38.36%)
- ▶ エネルギーを多く使う家電製品を同時に使用しない
29人(9.51%)
- ▶ 近くの移動は徒歩や自転車を利用する
60人(19.67%)
- ▶ 公共交通をできる限り利用するように心がける
45人(14.75%)
- ▶ ごみのポイ捨てをしない
245人(80.33%)
- ▶ 家の周囲の側溝のごみ拾いや除草作業を行い、ポイ捨てされにくい環境をつくる
23人(7.54%)
- ▶ 身近な公園や道路などの都市的施設を、地元にある共有財産として丁寧に利用する
43人(14.10%)
- ▶ 野良猫には餌付けをしない
69人(22.62%)
- ▶ 水生生物観察会などで河川の水質に関心を持つ
7人(2.30%)
- ▶ 森林でのアウトドアレジャーに親しむ
9人(2.95%)
- ▶ 今ある自然環境について関心を持ち、里山保全活動に参加したり、里山を散策し、豊かな自然を楽しんだりする
8人(2.62%)
- ▶ 地域や公民館などで開催される環境学習の場に積極的に参加する
14人(4.59%)
- ▶ 特に気をつけていることはない
11人(3.61%)



| | 飯田市内 | | 飯田市外 | | 割合低/割合高 |
|-----------------|------|--------|------|--------|---------|
| 必要な量だけ買う | 83 | 46.89% | 54 | 42.19% | 1.11 |
| 地元のものを買う | 32 | 18.08% | 17 | 13.28% | 1.36 |
| 長く使えるものを選ぶ | 58 | 32.77% | 29 | 22.66% | 1.45 |
| 詰め替え商品を選ぶ | 110 | 62.15% | 77 | 60.16% | 1.03 |
| 野菜の捨てる部分を減らす | 34 | 19.21% | 12 | 9.38% | 2.05 |
| 外食時には残さないように | 102 | 57.63% | 61 | 47.66% | 1.21 |
| 賞味期限の短いものを購入 | 53 | 29.94% | 18 | 14.06% | 2.13 |
| できるだけ再利用 | 27 | 15.25% | 12 | 9.38% | 1.63 |
| 紙やプラスチックを資源に分別 | 68 | 38.42% | 49 | 38.28% | 1.00 |
| 家電製品を同時に使用しない | 17 | 9.60% | 12 | 9.38% | 1.02 |
| 徒歩や自転車を利用 | 40 | 22.60% | 20 | 15.63% | 1.45 |
| 公共交通を利用 | 24 | 13.56% | 21 | 16.41% | 0.83 |
| ごみのポイ捨てをしない | 142 | 80.23% | 103 | 80.47% | 1.00 |
| ポイ捨てされにくい環境を | 16 | 9.04% | 7 | 5.47% | 1.65 |
| 施設を共有財産として利用 | 26 | 14.69% | 17 | 13.28% | 1.11 |
| 野良猫には餌付けをしない | 41 | 23.16% | 28 | 21.88% | 1.06 |
| 河川の水質に関心を持つ | 4 | 2.26% | 3 | 2.34% | 0.96 |
| アウトドアレジャーに親しむ | 6 | 3.39% | 3 | 2.34% | 1.45 |
| 自然環境について関心をもつ | 3 | 1.69% | 5 | 3.91% | 0.43 |
| 環境学習の場に積極的に参加する | 8 | 4.52% | 6 | 4.69% | 0.96 |
| 特に気をつけていることはない | 7 | 3.95% | 4 | 3.13% | 1.27 |



仮説④

④ 飯田市に愛着がない

→ 都市宣言等の用語だと、飯田市への愛着の有無での差はあまり無さそう。変わって飯田市の取り組みだと、学校に設置してあるペレットストーブ系の回答率が愛着の無い人より愛着のある人の方が2倍ほど高い。これは、主に飯田市に愛着のある人というのは飯田市に住んでいる人で、飯田市の小中学校に通っているとのおらずとペレットストーブを目にする機会が増えるからだと考えられる。また、環境問題に対する行動だと、飯田市に愛着のある人の方が回答率が高い。そのため、飯田市に愛着がないと、取り組みの認知はあまり関係がないが、環境問題への行動はあまりしていないとすることができそう。

- 「2025 いいだゼロカーボンシティ宣言」の回答率は飯田市に愛着のない人の方が高い
- 「ごみ処理費用負担制度」、「ラウンドアバウト」、「地域環境権条例」、「うごくる。」の回答率は飯田市に愛着のない人の方が高い
- 「自然環境について関心をもつ」の回答率は飯田市に愛着のない人の方が大きい

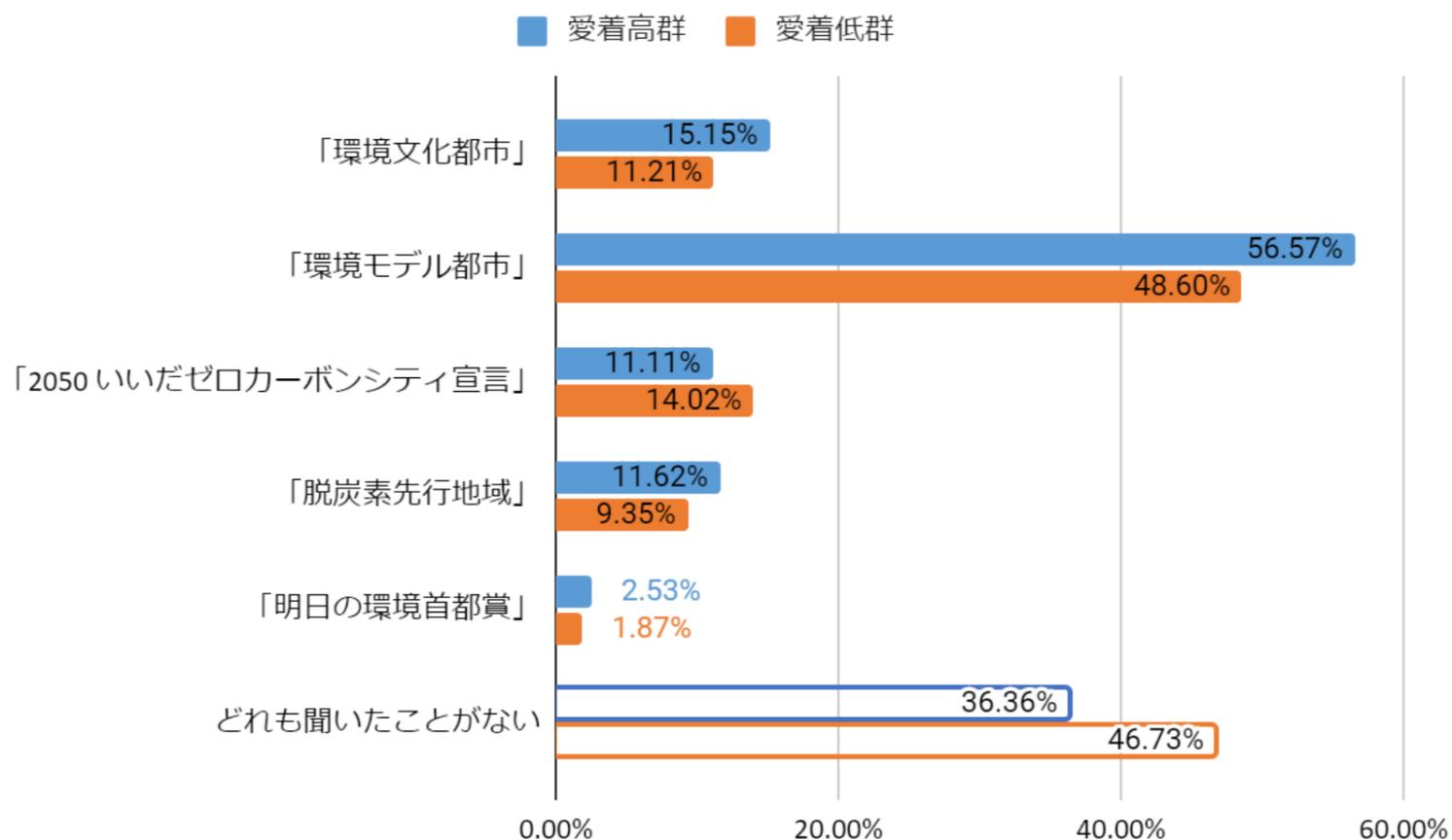
飯田市への愛着と環境問題への関心は関係がないのではないかと

⑦ 飯田市に対して愛着はありますか。

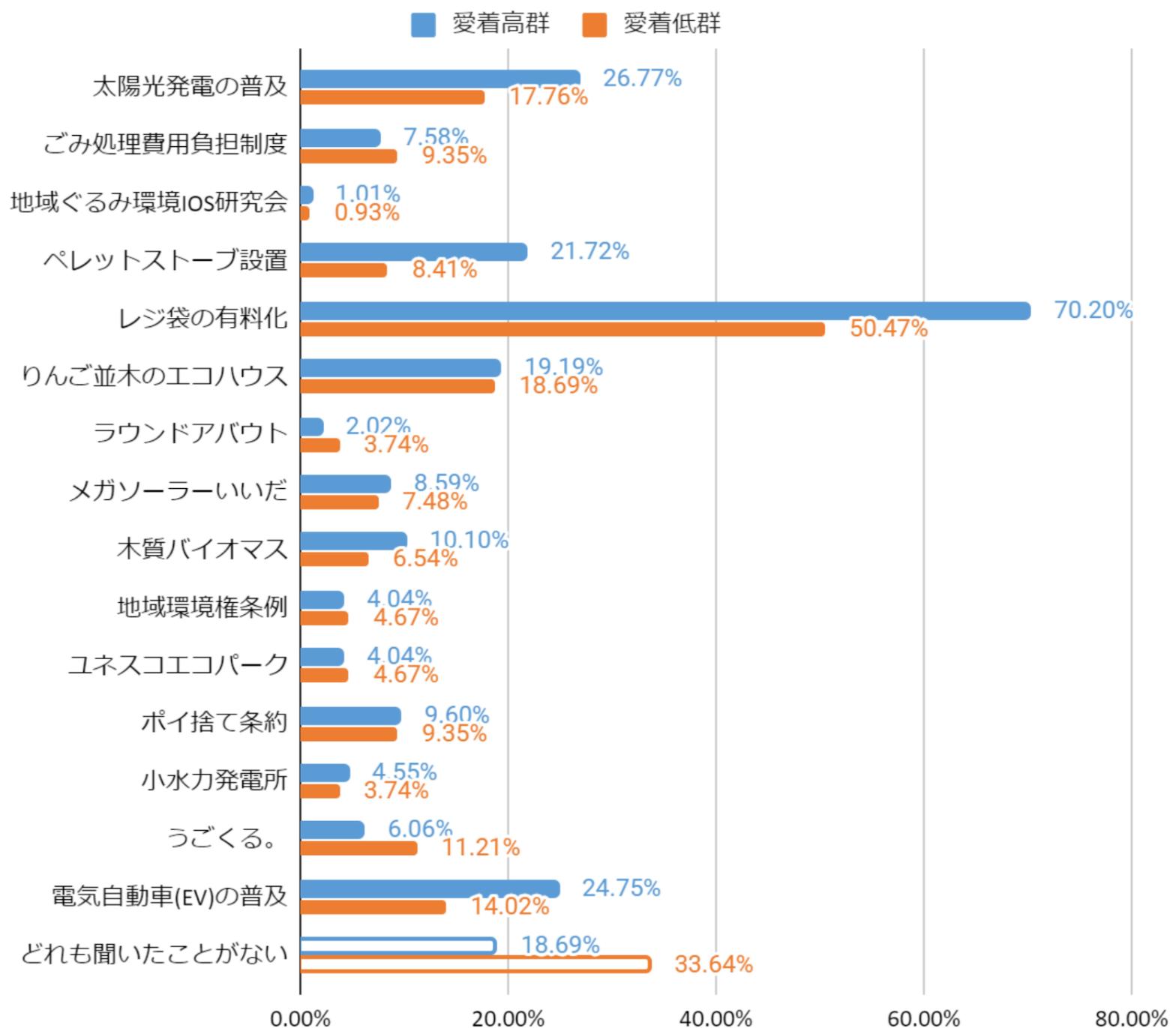
| | 人数 | 割合 | |
|--------------|-----|--------|--------|
| 1.ある | 73 | 23.93% | 愛着高群 |
| 2.どちらかといえばある | 125 | 40.98% | 64.92% |
| 3.どちらでもない | 74 | 24.26% | |
| 4.どちらかといえはない | 17 | 5.57% | 愛着低群 |
| 5.ない | 16 | 5.25% | 35.08% |

飯田市の取り組みに対する認知度とクロス分析

| | 愛着高群 | 愛着低群 | 割合高/割合低 |
|-----------------------|--------|--------|---------|
| 「環境文化都市」 | 15.15% | 11.21% | 1.35 |
| 「環境モデル都市」 | 56.57% | 48.60% | 1.16 |
| 「2050 いいだゼロカーボンシティ宣言」 | 11.11% | 14.02% | 1.26 |
| 「脱炭素先行地域」 | 11.62% | 9.35% | 1.24 |
| 「明日の環境首都賞」 | 2.53% | 1.87% | 1.35 |
| どれも聞いたことがない | 36.36% | 46.73% | 1.29 |

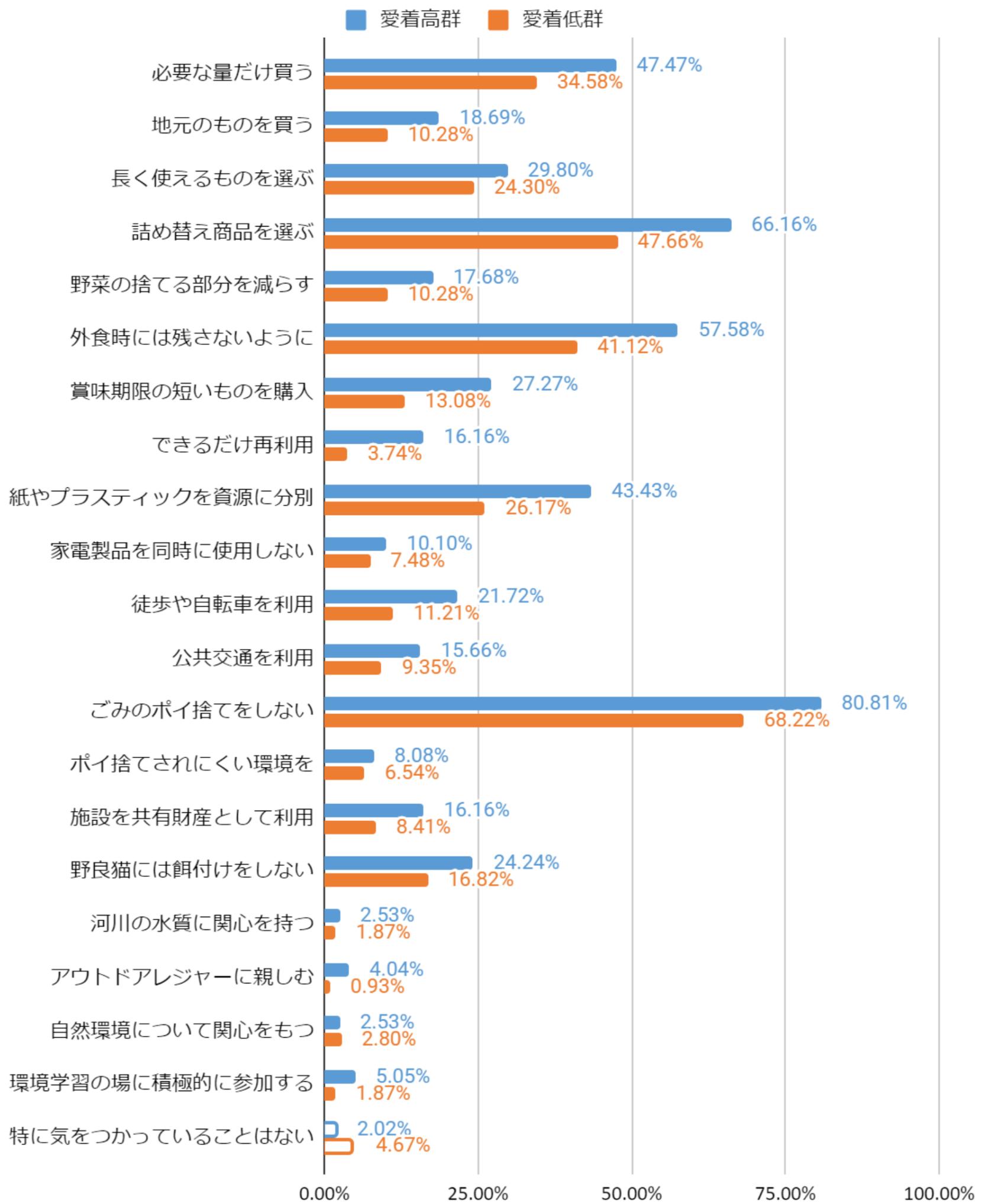


| | 愛着高群 | 愛着低群 | 割合高/割合低 |
|---------------|--------|--------|---------|
| 太陽光発電の普及 | 26.77% | 17.76% | 1.51 |
| ごみ処理費用負担制度 | 7.58% | 9.35% | 1.23 |
| 地域ぐるみ環境IOS研究会 | 1.01% | 0.93% | 1.08 |
| ペレットストーブ設置 | 21.72% | 8.41% | 2.58 |
| レジ袋の有料化 | 70.20% | 50.47% | 1.39 |
| りんご並木のエコハウス | 19.19% | 18.69% | 1.03 |
| ラウンドアバウト | 2.02% | 3.74% | 1.85 |
| メガソーラーいいだ | 8.59% | 7.48% | 1.15 |
| 木質バイオマス | 10.10% | 6.54% | 1.54 |
| 地域環境権条例 | 4.04% | 4.67% | 1.16 |
| ユネスコエコパーク | 4.04% | 4.67% | 1.16 |
| ポイ捨て条約 | 9.60% | 9.35% | 1.03 |
| 小水力発電所 | 4.55% | 3.74% | 1.22 |
| うごくる。 | 6.06% | 11.21% | 1.85 |
| 電気自動車(EV)の普及 | 24.75% | 14.02% | 1.77 |
| どれも聞いたことがない | 18.69% | 33.64% | 1.80 |



環境に対する行動とクロス分析

| | 愛着高群 | 愛着低群 | 割合高/割合低 |
|-----------------|--------|--------|---------|
| 必要な量だけ買う | 47.47% | 34.58% | 1.37 |
| 地元のものを買う | 18.69% | 10.28% | 1.82 |
| 長く使えるものを選ぶ | 29.80% | 24.30% | 1.23 |
| 詰め替え商品を選ぶ | 66.16% | 47.66% | 1.39 |
| 野菜の捨てる部分を減らす | 17.68% | 10.28% | 1.72 |
| 外食時には残さないように | 57.58% | 41.12% | 1.40 |
| 賞味期限の短いものを購入 | 27.27% | 13.08% | 2.08 |
| できるだけ再利用 | 16.16% | 3.74% | 4.32 |
| 紙やプラスチックを資源に分別 | 43.43% | 26.17% | 1.66 |
| 家電製品を同時に使用しない | 10.10% | 7.48% | 1.35 |
| 徒歩や自転車を利用 | 21.72% | 11.21% | 1.94 |
| 公共交通を利用 | 15.66% | 9.35% | 1.68 |
| ごみのポイ捨てをしない | 80.81% | 68.22% | 1.18 |
| ポイ捨てされにくい環境を | 8.08% | 6.54% | 1.24 |
| 施設を共有財産として利用 | 16.16% | 8.41% | 1.92 |
| 野良猫には餌付けをしない | 24.24% | 16.82% | 1.44 |
| 河川の水質に関心を持つ | 2.53% | 1.87% | 1.35 |
| アウトドアレジャーに親しむ | 4.04% | 0.93% | 4.32 |
| 自然環境について関心をもつ | 2.53% | 2.80% | 1.11 |
| 環境学習の場に積極的に参加する | 5.05% | 1.87% | 2.70 |
| 特に気をつけていることはない | 2.02% | 4.67% | 2.31 |



仮説⑤

⑤ もともと環境問題やエネルギー問題に対する関心が薄い

→ 飯田市の取り組みに対する認知度と環境問題に対する行動は、全体的に見て環境問題に関心がある人の回答率の方が高い。特に飯田市の取り組みの認知度は環境問題に関心のある人の回答率が高い。これは、私たちが経験したように環境問題について調べている時に飯田市の取り組みを知ったか、飯田市がこのような取り組みをしていることを知ってから世の中の環境問題に関心を持つようになったことが考えられる。どちらにせよ、環境問題への関心＝飯田市の取り組みへの認知と考えることができそうである。よって、環境問題に関心のある人ほど、飯田市の取り組みを認知していて、環境問題に対しても行動している。

- 「ポイ捨て条約」の回答率は環境問題に関心のない人の方が高い
- 「家電製品を同時に使用しない」の回答率は環境問題に関心のない人の方が高い

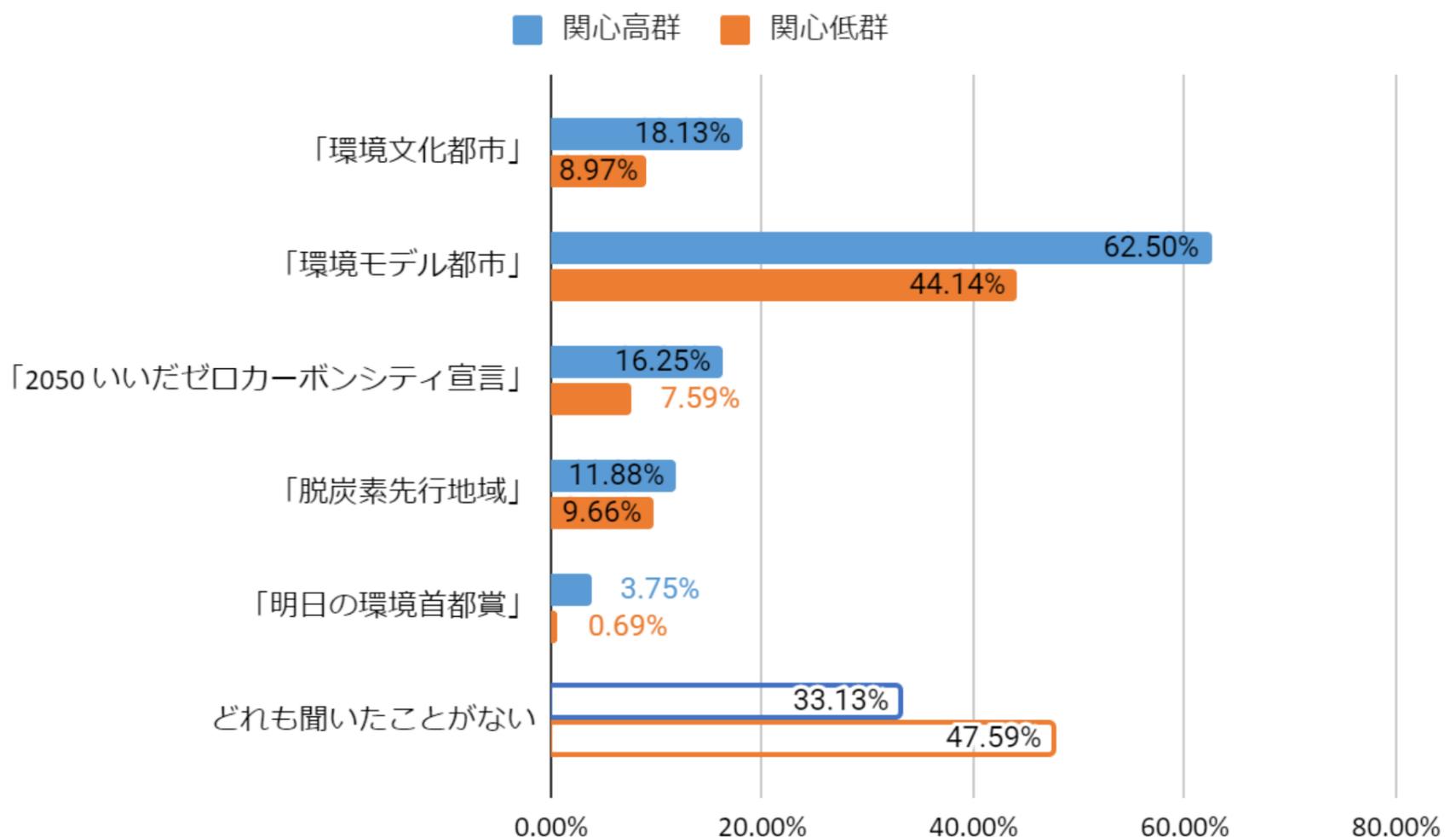
環境問題に関心がある人のきっかけはどこからなのか

⑧ 環境問題やエネルギー問題に対して興味・関心はありますか。

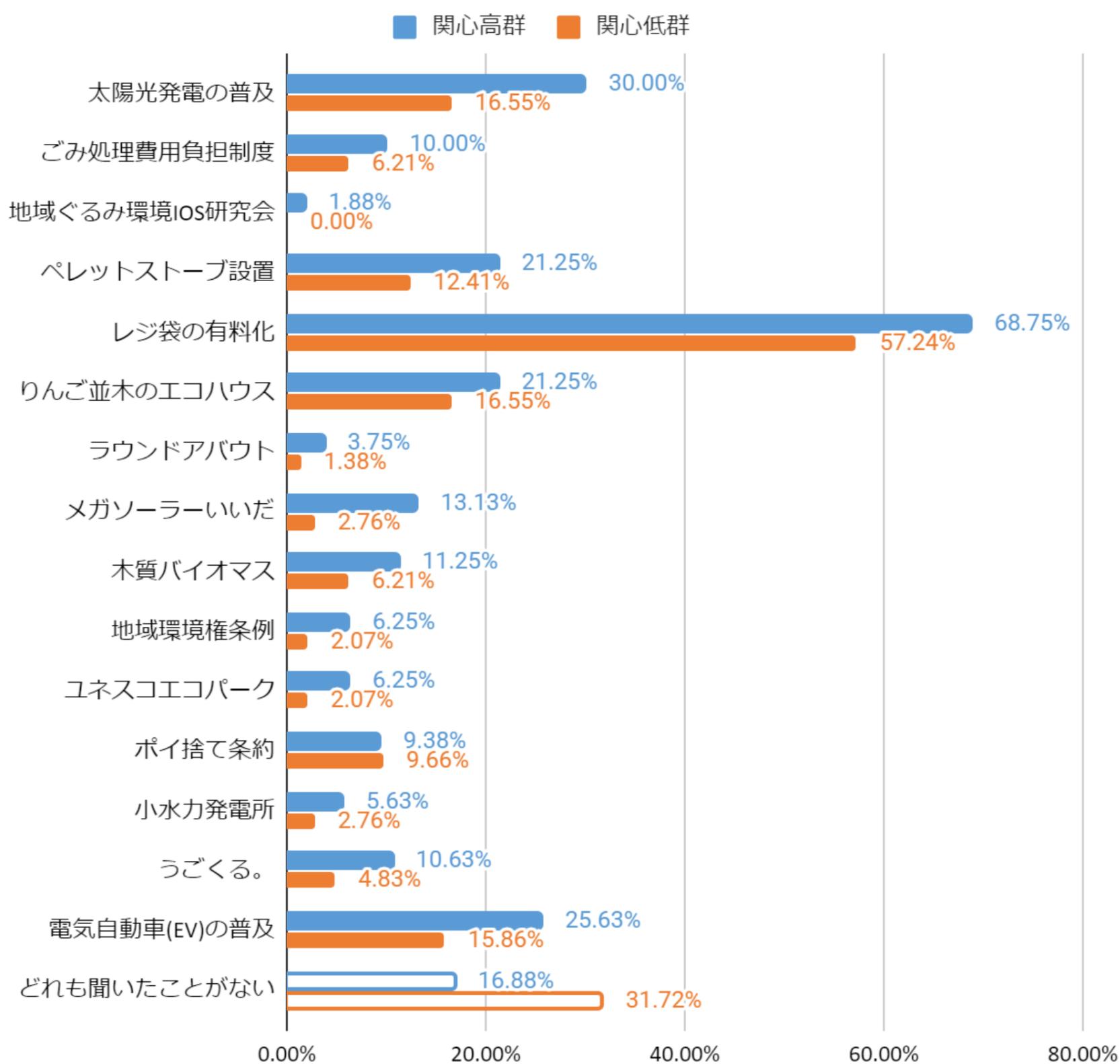
| | 人数 | 割合 | |
|--------------|-----|--------|--------|
| 1.ある | 46 | 15.08% | 関心高群 |
| 2.どちらかといえばある | 114 | 37.38% | 52.46% |
| 3.どちらでもない | 88 | 28.85% | |
| 4.どちらかといえはない | 34 | 11.15% | 関心低群 |
| 5.ない | 23 | 7.54% | 47.54% |

飯田市の取り組みに対する認知度とクロス分析

| | 関心高群 | 関心低群 | 割合高/割合低 |
|-----------------------|--------|--------|---------|
| 「環境文化都市」 | 18.13% | 8.97% | 2.02 |
| 「環境モデル都市」 | 62.50% | 44.14% | 1.42 |
| 「2050 いいだゼロカーボンシティ宣言」 | 16.25% | 7.59% | 2.14 |
| 「脱炭素先行地域」 | 11.88% | 9.66% | 1.23 |
| 「明日の環境首都賞」 | 3.75% | 0.69% | 5.44 |
| どれも聞いたことがない | 33.13% | 47.59% | 1.44 |

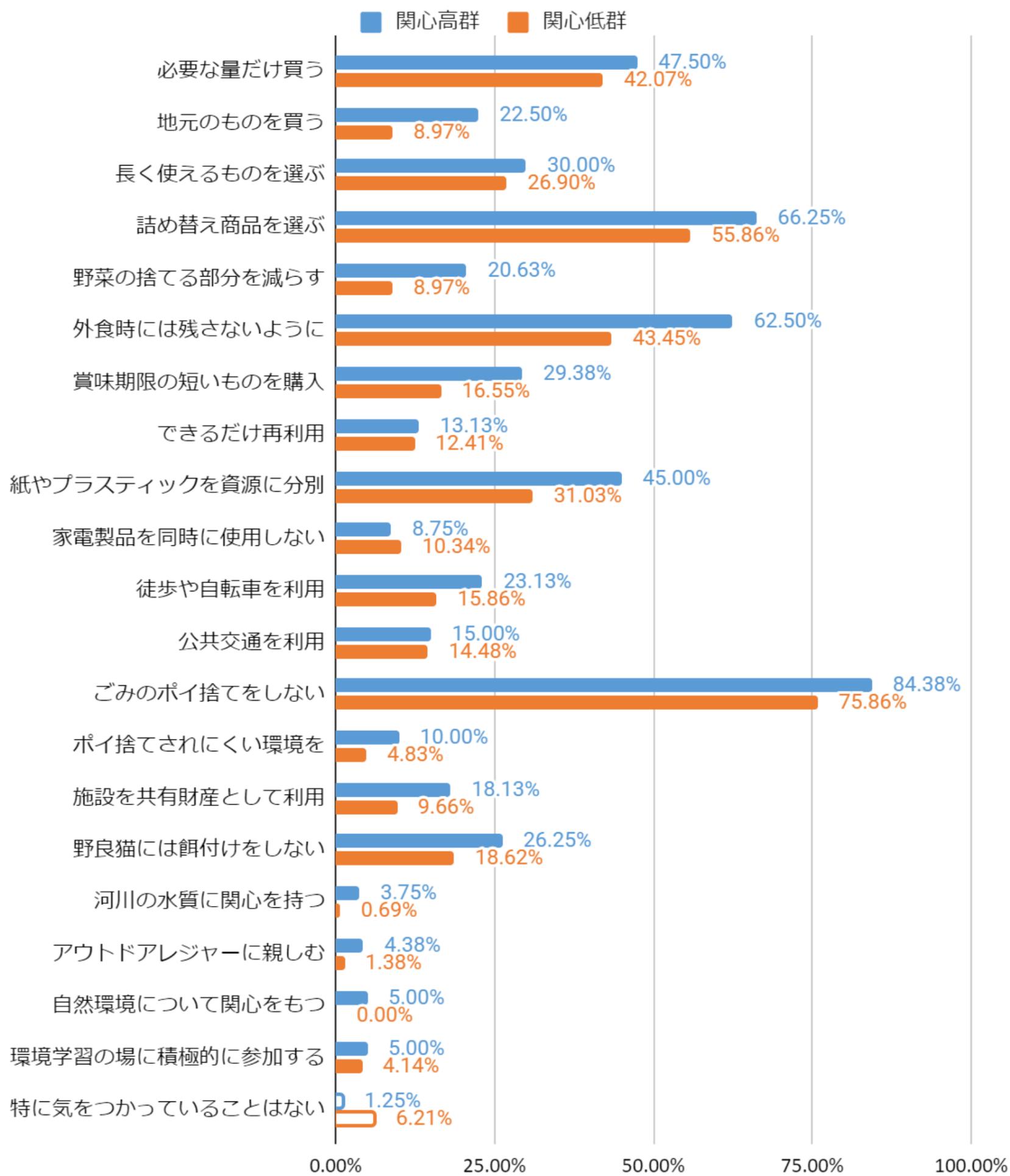


| | 関心高群 | 関心低群 | 割合高/割合低 |
|---------------|--------|--------|---------|
| 太陽光発電の普及 | 30.00% | 16.55% | 1.81 |
| ごみ処理費用負担制度 | 10.00% | 6.21% | 1.61 |
| 地域ぐるみ環境IOS研究会 | 1.88% | 0.00% | 0.00 |
| ペレットストーブ設置 | 21.25% | 12.41% | 1.71 |
| レジ袋の有料化 | 68.75% | 57.24% | 1.20 |
| りんご並木のエコハウス | 21.25% | 16.55% | 1.28 |
| ラウンドアバウト | 3.75% | 1.38% | 2.72 |
| メガソーラーいいだ | 13.13% | 2.76% | 4.76 |
| 木質バイオマス | 11.25% | 6.21% | 1.81 |
| 地域環境権条例 | 6.25% | 2.07% | 3.02 |
| ユネスコエコパーク | 6.25% | 2.07% | 3.02 |
| ポイ捨て条約 | 9.38% | 9.66% | 1.03 |
| 小水力発電所 | 5.63% | 2.76% | 2.04 |
| うごくる。 | 10.63% | 4.83% | 2.20 |
| 電気自動車(EV)の普及 | 25.63% | 15.86% | 1.62 |
| どれも聞いたことがない | 16.88% | 31.72% | 1.88 |



環境問題に対する行動とクロス分析

| | 関心高群 | 関心低群 | 割合高/割合低 |
|-----------------|--------|--------|---------|
| 必要な量だけ買う | 47.50% | 42.07% | 1.13 |
| 地元のものを買う | 22.50% | 8.97% | 2.51 |
| 長く使えるものを選ぶ | 30.00% | 26.90% | 1.12 |
| 詰め替え商品を選ぶ | 66.25% | 55.86% | 1.19 |
| 野菜の捨てる部分を減らす | 20.63% | 8.97% | 2.30 |
| 外食時には残さないように | 62.50% | 43.45% | 1.44 |
| 賞味期限の短いものを購入 | 29.38% | 16.55% | 1.77 |
| できるだけ再利用 | 13.13% | 12.41% | 1.06 |
| 紙やプラスチックを資源に分別 | 45.00% | 31.03% | 1.45 |
| 家電製品を同時に使用しない | 8.75% | 10.34% | 1.18 |
| 徒歩や自転車を利用 | 23.13% | 15.86% | 1.46 |
| 公共交通を利用 | 15.00% | 14.48% | 1.04 |
| ごみのポイ捨てをしない | 84.38% | 75.86% | 1.11 |
| ポイ捨てされにくい環境を | 10.00% | 4.83% | 2.07 |
| 施設を共有財産として利用 | 18.13% | 9.66% | 1.88 |
| 野良猫には餌付けをしない | 26.25% | 18.62% | 1.41 |
| 河川の水質に関心を持つ | 3.75% | 0.69% | 5.44 |
| アウトドアレジャーに親しむ | 4.38% | 1.38% | 3.17 |
| 自然環境について関心をもつ | 5.00% | 0.00% | 0.00 |
| 環境学習の場に積極的に参加する | 5.00% | 4.14% | 1.21 |
| 特に気をつけていることはない | 1.25% | 6.21% | 4.97 |



仮説⑥

⑥ モラルが低い

→ 「環境文化都市」以外の全ての項目の回答率はモラル高群の方が高い。だが、「環境文化都市」の回答率の差はとても小さいので誤差の範囲だと考えさせてもらおう。とすると、仮説④（飯田市への愛着）と仮説⑤（環境問題への関心）のクロス分析よりも高群と低群で差が最もよく現れている。よって、飯田市の取り組みを認知してもらうにはモラルを高めることが一番効果的と考えることができる。

- 「環境文化都市」の回答率はモラル低群の方が高い

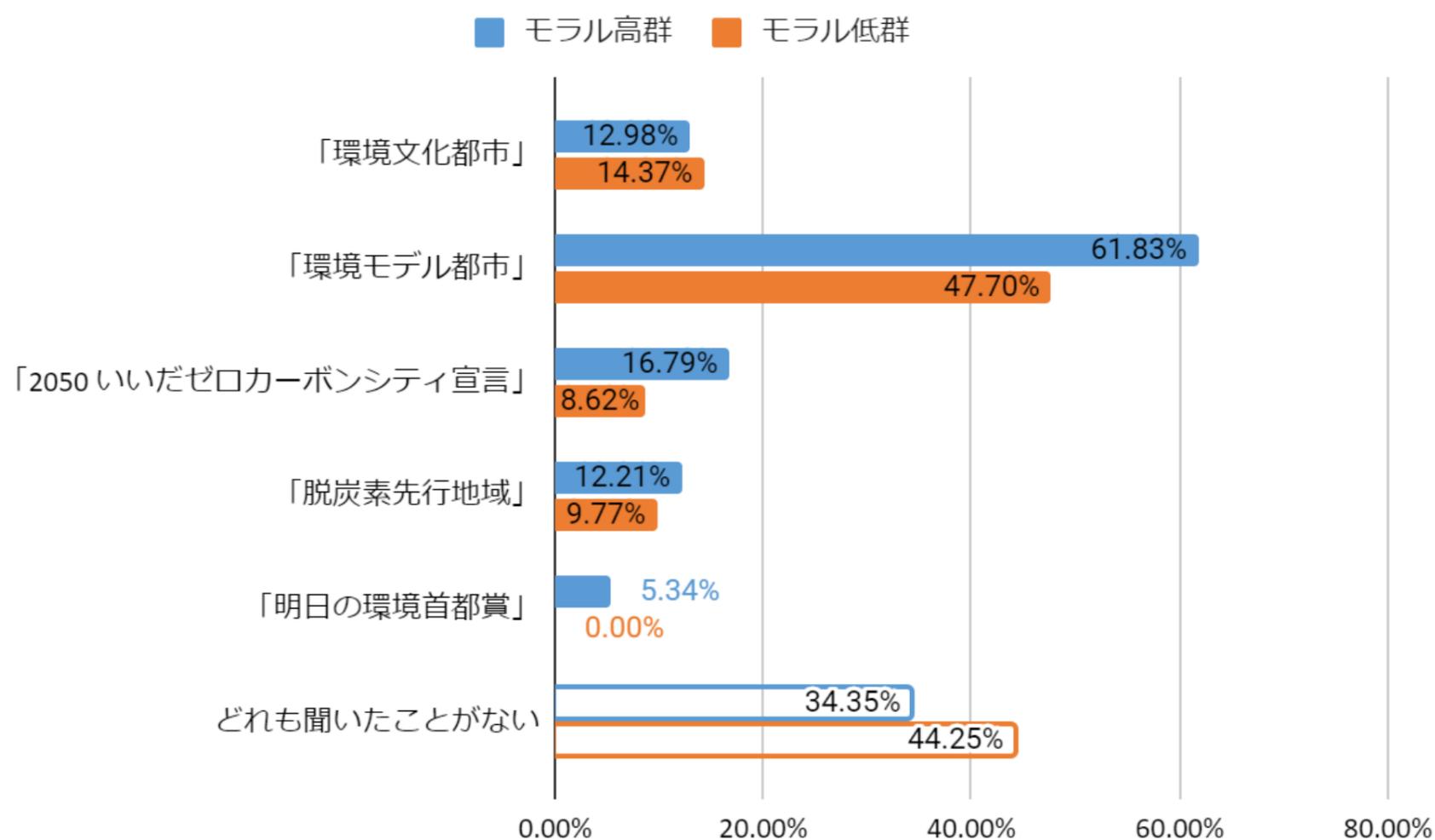
⑥ 普段の生活意識や行動について近いものをチェックしてください。（複数回答可）

全サンプル305人の半分、152.4人目が選択個数3個中にあるため、3個までをモラル低群、4個以上をモラル高群とする

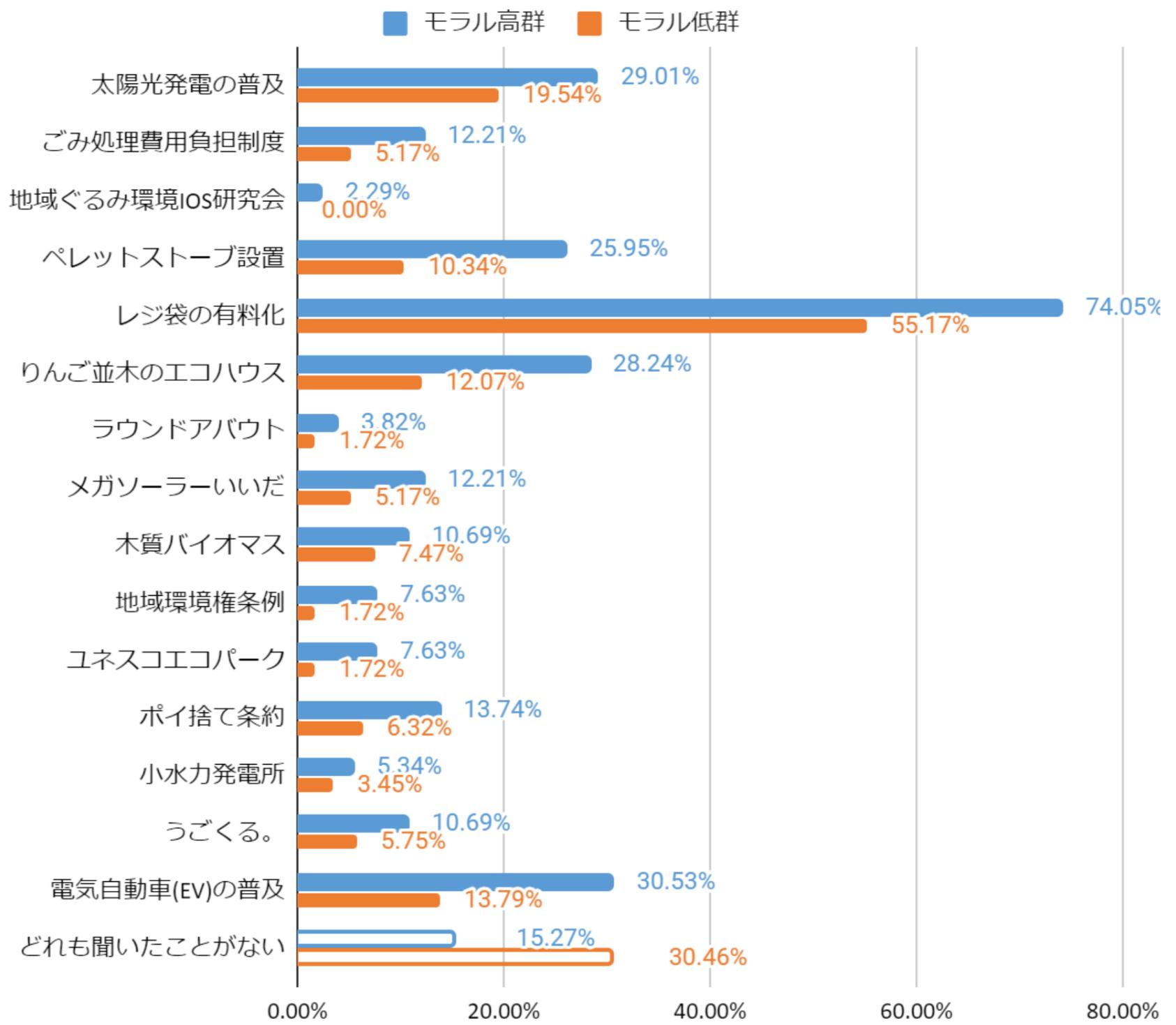
| 選択個数 | 人数 | 割合 | | |
|------|----|--------|--------|-----|
| 0個 | 24 | 7.87% | | |
| 1個 | 57 | 18.69% | | |
| 2個 | 49 | 16.07% | モラル低群 | |
| 3個 | 44 | 14.43% | 57.05% | 中央値 |
| 4個 | 41 | 13.44% | | |
| 5個 | 25 | 8.20% | | |
| 6個 | 20 | 6.56% | | |
| 7個 | 16 | 5.25% | | |
| 8個 | 10 | 3.28% | | |
| 9個 | 4 | 1.31% | | |
| 10個 | 4 | 1.31% | | |
| 11個 | 5 | 1.64% | | |
| 12個 | 4 | 1.31% | | |
| 13個 | 2 | 0.66% | モラル高群 | |
| 14個 | 0 | 0.00% | 42.95% | |

飯田市の取り組みへの認知度とクロス分析

| | モラル高群 | モラル低群 | 割合高/割合低 |
|-----------------------|--------|--------|---------|
| 「環境文化都市」 | 12.98% | 14.37% | 1.11 |
| 「環境モデル都市」 | 61.83% | 47.70% | 1.30 |
| 「2050 いいだゼロカーボンシティ宣言」 | 16.79% | 8.62% | 1.95 |
| 「脱炭素先行地域」 | 12.21% | 9.77% | 1.25 |
| 「明日の環境首都賞」 | 5.34% | 0.00% | 0.00 |
| どれも聞いたことがない | 34.35% | 44.25% | 1.29 |

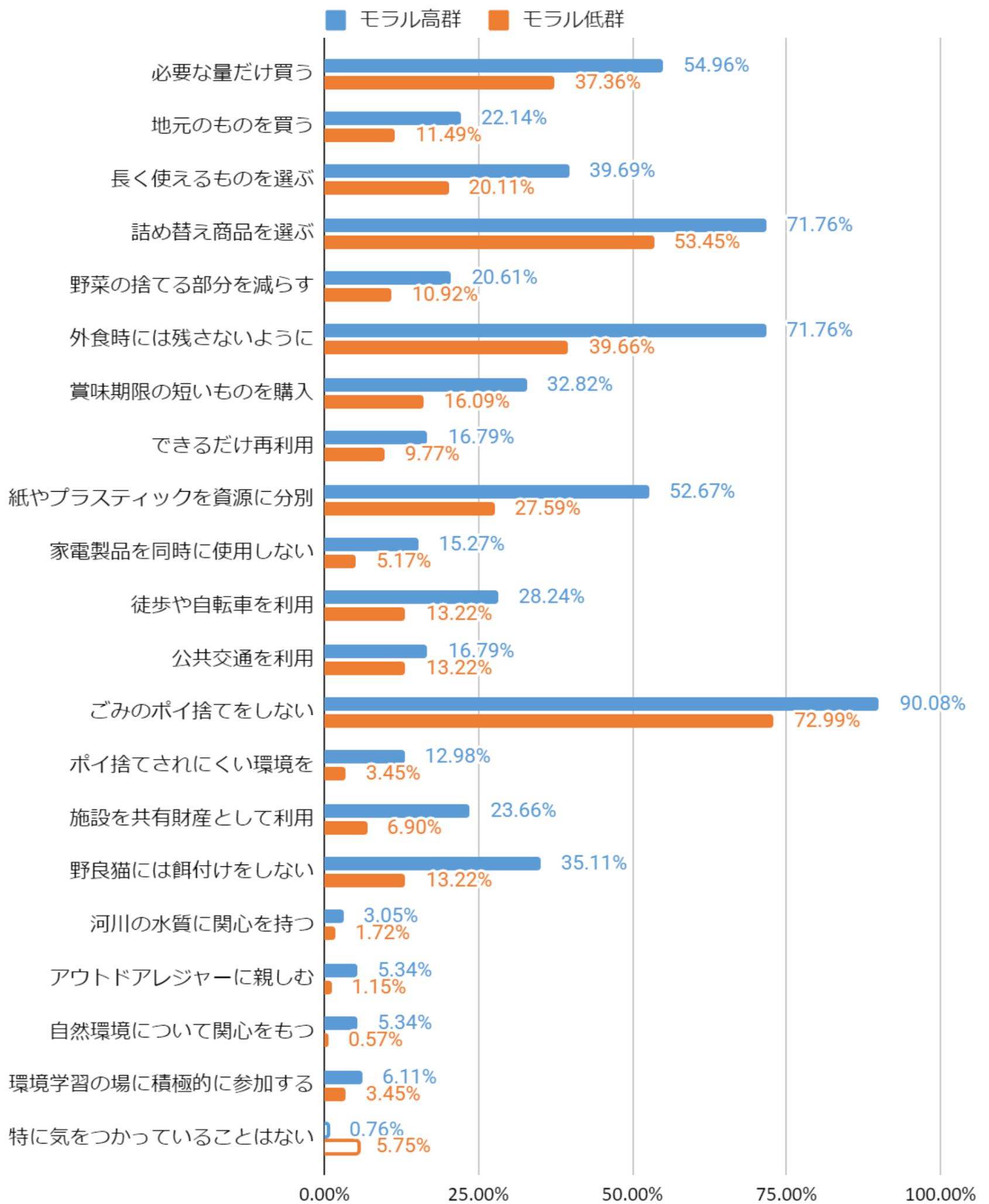


| | モラル高群 | モラル低群 | 割合高/割合低 |
|---------------|--------|--------|---------|
| 太陽光発電の普及 | 29.01% | 19.54% | 1.48 |
| ごみ処理費用負担制度 | 12.21% | 5.17% | 2.36 |
| 地域ぐるみ環境IOS研究会 | 2.29% | 0.00% | 0.00 |
| ペレットストーブ設置 | 25.95% | 10.34% | 2.51 |
| レジ袋の有料化 | 74.05% | 55.17% | 1.34 |
| りんご並木のエコハウス | 28.24% | 12.07% | 2.34 |
| ラウンドアバウト | 3.82% | 1.72% | 2.21 |
| メガソーラーいいだ | 12.21% | 5.17% | 2.36 |
| 木質バイオマス | 10.69% | 7.47% | 1.43 |
| 地域環境権条例 | 7.63% | 1.72% | 4.43 |
| ユネスコエコパーク | 7.63% | 1.72% | 4.43 |
| ポイ捨て条約 | 13.74% | 6.32% | 2.17 |
| 小水力発電所 | 5.34% | 3.45% | 1.55 |
| うごくる。 | 10.69% | 5.75% | 1.86 |
| 電気自動車(EV)の普及 | 30.53% | 13.79% | 2.21 |
| どれも聞いたことがない | 15.27% | 30.46% | 2.00 |



環境問題への行動とクロス分析

| | モラル高群 | モラル低群 | 割合高/割合低 |
|-----------------|--------|--------|---------|
| 必要な量だけ買う | 54.96% | 37.36% | 1.47 |
| 地元のものを買う | 22.14% | 11.49% | 1.93 |
| 長く使えるものを選ぶ | 39.69% | 20.11% | 1.97 |
| 詰め替え商品を選ぶ | 71.76% | 53.45% | 1.34 |
| 野菜の捨てる部分を減らす | 20.61% | 10.92% | 1.89 |
| 外食時には残さないように | 71.76% | 39.66% | 1.81 |
| 賞味期限の短いものを購入 | 32.82% | 16.09% | 2.04 |
| できるだけ再利用 | 16.79% | 9.77% | 1.72 |
| 紙やプラスチックを資源に分別 | 52.67% | 27.59% | 1.91 |
| 家電製品を同時に使用しない | 15.27% | 5.17% | 2.95 |
| 徒歩や自転車を利用 | 28.24% | 13.22% | 2.14 |
| 公共交通を利用 | 16.79% | 13.22% | 1.27 |
| ごみのポイ捨てをしない | 90.08% | 72.99% | 1.23 |
| ポイ捨てされにくい環境を | 12.98% | 3.45% | 3.76 |
| 施設を共有財産として利用 | 23.66% | 6.90% | 3.43 |
| 野良猫には餌付けをしない | 35.11% | 13.22% | 2.66 |
| 河川の水質に関心を持つ | 3.05% | 1.72% | 1.77 |
| アウトドアレジャーに親しむ | 5.34% | 1.15% | 4.65 |
| 自然環境について関心をもつ | 5.34% | 0.57% | 9.30 |
| 環境学習の場に積極的に参加する | 6.11% | 3.45% | 1.77 |
| 特に気をつけていることはない | 0.76% | 5.75% | 7.53 |



◎仮説を通しての考察

「市民の人との繋がり」が薄れてきているのではないだろうか。飯田市の強みである市民間での繋がりもあって飯田市は環境問題に積極的に取り組んできた。だが、設問⑥（日常生活の中で、環境やエネルギーに対して気をつけていることはありますか。）の結果によって、地域の情報収集をしている高校生が顕著に少ないことが分かった。現代は情報化社会である。ひとつの情報を得ようとしても新聞、テレビ、ネットなどの様々なツールがある。さらに、電子化が進んでいて紙媒体で文書を読む人も減っている。だが、地域の情報を得ようとする、主に新聞や広報誌などの紙媒体が多いのではないだろうか。この違いが行政と市民（高校生）とのギャップのように思われる。だからといって高校生が多く利用するSNSで情報を開示したらすぐに飯田市の取り組みとして知ってもらえるわけではない。情報化社会であることによって、個人が自分の好きな情報を選んで得られるようになっている。最近よくあるおすすめ機能というAIがその人の好きな情報の傾向を読み取って情報を提供してくれる機能によって、私たちの持っている情報はかなり偏ったものになっている。そのため、情報を届けたい人に届けるということがとても難しくなっている。

また、仮説⑥（モラルが低い）によって環境問題への知見や関心があることよりも、モラルがあることの方が飯田市の取り組みについて認知されることができ、環境問題にも行動してもらえることが分かった。そもそも環境問題とは自分ごととして捉えづらい。環境問題に対して行動しようと思っても課題が大きすぎて一人の力では何も変えることができないだろうと思ってしまうがちである。だが、モラルがあると自分のことよりも対外的なことを気にすることができるので、環境問題への関心も湧きやすいのではないだろうか。つまり、モラルがあればあるほど環境問題に関心を持ちやすいということだ。

市民に飯田市の取り組みが認知されていないのは、地域の情報収集をしている人が少ない、モラルが低いということが考えられそうだ。

◎考察から考えられる新しい仮説

- 高校生が多く使う情報媒体とは何か
- 行政の広報には紙媒体が多いのか

○意識調査を終えて

探究活動を通して、本当に目まぐるしい成長を遂げたと自分でも感じる。最初は、課題研究活動支援事業の審査を通るための書類すら満足に書けなかった私がこうして自分の研究結果をまとめ上げられたことに大きな喜びを感じている。もちろん、活動を優先するあまり失ったものもある。だが、それ以上に得られたものが大きかった。

特に挑戦することの大切さに気づかされた。私はよく静かで落ち着いた人だと言われる。その所以があるように、私は何事にも悩んで結局歩いたことのある安全な道を選んでしまう人だ。それでも私が探究活動を始めようと思ったのは、ほとんどは大学受験に有利になるかもしれないという邪な気持ちもあったかもしれないが、こんな自分を変えたいという思いがあったからだ。この挑戦が転機となり、いろいろなことに気づかされた。

まず探究活動で面白かったのは取材だ。学校にいと、日常的に会う大人と言えば先生、親類ぐらいで何かのスペシャリストという人に会ったのはこの機会が初めてだったかもしれない。特に飯田市は環境問題への取り組みが市民には伝わらないという課題を抱えているが、その状況をなんとか打開しようとする大人たちの奮闘やそこに掛ける熱い思いを聞くことができた。ただの高校生を温かく迎え入れてくれたことがうれしかったし、私もこの状況を打開するために一役買わせていただきたいと思った。

私の活動の主軸として行った意識調査では、アンケートの奥深さにいつも驚かされた。普段なんか面倒くさいなと少し感じながら答えていたアンケートだったが、実際は回答者への配慮が詰まったものだった。聞き方にしても少し文言を変えるだけで印象が変わり回答率にも影響があったり、選択問題の順番でも答えやすさが変わってきたりすることを知った。こんなに作りこまれたものだとは思ってもいなかったのでアンケート作りにはかなり時間がかかった。だからこそ、たくさんの人に回答してもらうことができ本当にうれしかった。

そして、私が一番辛かったのは人に伝えることが上手くいかなかったことだ。こんな性格なので人前に入るのは嫌いだ。だが、東京大学での成果発表会の時はこんなにへとへとになるまで活動を頑張ったんだから絶対に評価してもらえると信じ込んでいた。しかし、現状は厳しく、私の発表の部分は評価してもらえなかった。独りよがりになってしまっていた自分が絶対に悪かった。だがこのことに気づけてよかったし、客観的な視点の大切さにも気づかされた。この自分自身のことについてしれたのが私を大きく成長させたように思える。

最後に、この活動に協力していただいた皆様には本当に感謝を伝えたい。一高校生の活動に親身になってくださり、話を聞いてくださりありがとうございました。